

経済技術協力国別資料シリーズ

バングラデシュ

PEOPLE'S REPUBLIC OF BANGLADESH

1985年8月

国際協力事業団
企画部 地域課

地	域
[REDACTED]	
85	10

正誤表（パンクラデシュ）

頁	箇 所	誤	正
1	● 言語、1行目	公用的	公用語
〃	● 貿易、3行目	モザンピーク	モザンピーク
〃	● 貿易、4行目	2,418.5	2,418.5
9	表2-1、表題	バングラディッシュ	バングラデシュ
〃	表2-2、表題	バングラディッシュ	バングラデシュ
12	(2) ODAの推移、7行目	9.12%	4.5 %
〃	レーダーチャート図、表題	(1982)	-削除-
14	●広域プロジェクト等 加-3-1	Fertilijer	Fertilizer
15	(2) ODAの推移、5行目	480の	P L 480の
〃	(3) 形態別・分野別特徴、4行目	機械創出	機会創出
〃	下から1行目	社会福祉7.4%	社会福祉7.4%等
〃	レーダーチャート図、表題	(1982)	-削除-
16	プロジェクトリスト、米-3-4	フィダー	フィニダー
18	レーダーチャート図、表題	(1982)	-削除-
20	レーダーチャート図、表題	プロジェクト	プロジェクト
〃	レーダーチャート図、表題	(1982)	-削除-
21	プロジェクトリスト、加-2-4	40排水口	40の排水口
〃	プロジェクトリスト、加-3-1	Fertilijer	Fertilizer
〃	レーダーチャート図、表題	(1982)	-削除-
22	プロジェクトリスト、蘭-2-1	Putch	Dutch
24	プロジェクトリスト、I-3-1	食料自助	食料自給
32	上から3行目	バングラディッシュ	バングラデシュ
37	プロジェクトリスト、2-8	E/N 559.4.5	E/N 59.4.5
39	プロジェクトリスト、4-1	バクラード	バクラバード

(注) 本文中の各表における「-」あるいは空欄は、ともに数値不明を意味する。

国際協力事業団	
受入 月日	'85.12.20
	101
	36
登録No. 12216 PLC	

作成にあたって

この経済技術協力国別資料シリーズは、我が国を始め、主要援助供与諸国及び国際機関が、技術協力、経済協力として1982年以後実施済の、あるいは実施中のプロジェクトを調査しまとめたものです。

それぞれの被援助国に対し、各援助供与国及び各援助機関が、どのような方針に基いて援助を実施してきたかを明らかにしようと試みました。また、被援助国側が各援助供与国や国際機関別にどのような援助のあり方を期待しているかを探り、ひいては我が国の援助の方向性を考える目的の下に本シリーズを作成しました。

作成にあたっては、外務省、海外経済協力基金、JICA海外事務所、専門家等の大勢の方々の御協力を得ました。ここに、本シリーズ作成に御協力下さった皆様に改めて謝意を申し上げると共に、本誌が関係各位の業務の一助になることを願って止みません。

昭和60年8月

国際協力事業団

企画部長

高橋 雅二

JICA LIBRARY



1033401[9]

● 國際機関名略称

AFDB	- African Development Bank
AsDB	- Asian Development Bank
EEC	- European Economic Community
FAO	- Food and Agriculture Organization
IBRD	- International Bank for Reconstruction and Development
IDA	- International Development Association
IEA	- International Energy Agency
IFAD	- International Fund for Agricultural Development
ILO	- International Labour Organization
ITC	- International Trade Centre
ITU	- International Telecommunication Union
OECD	- Organization for Economic Cooperation and Development
OPEC	- Organization of Petroleum Exporting Countries
UNCTAD	- United Nations Conference on Trade and Development
UNDTCD	- United Nations Department of Technical Cooperation for Development
UNDP	- United Nations Development Program
UNESCO	- United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
UNFPA	- United Nations Fund for Population Activities
UNHCR	- Office of the United Nations High Commissioner for Refugees
UNICEF	- United Nations Children's Fund
UNIDO	- United Nations Industrial Development Organization
WFP	- World Food Program
WHO	- World Health Organization
WMO	- World Meteorological Organization

「バングラデシュ」に対する 経済・技術協力の概要

目 次

1 経済・社会開発計画概要

- 1-1 対象国 の概要 / 1
- 1-2 開発計画概要 / 3

2 経済・技術協力の推移

- 2-1 援助活動の推移 / 6
- 2-2 最近の援助動向 / 6

3 主要援助国・国際機関による援助の実績と特徴

- 3-1 主要援助国・国際機関別援助の特徴 / 10

4 我が国の経済・技術協力実施状況

- 4-1 我が国の援助の特徴 / 32
- 4-2 分野別経済・技術協力実施状況 / 36

1 経済・社会開発計画概要

1-1 バングラデシュの概要

- 面 積 144千km² (日本の約0.4倍)
- 人 口 (a) 92,859千人
- 政 体 共和制 (1975年1月25日、大統領を頂く議員内閣制から大統領制へ移行。但し1982年3月24日より戒厳令下にあり、憲法は停止されている。)
元首:大統領 フセイン・モハマド・エルシャド
(Hussain Mohammad ERSHAD)
- 民 族 人種的には有史以前からの土着民族、モンゴル系人種、ドラブィタ人およびアーリア人の4人種の混血とされているベンガル人が大部分を占める。
- 言 語 国語および公用的是ベンガル語。英語も有識者の間では広く普及。
- 宗 教 イスラム教(85.4%)、ヒンズー教(13.5%)、仏教(0.6%)、キリスト教(0.3%)、その他(0.2%)
- 教 育 小学校(6~10才、義務制)、中学校(11~15才)、高校(16~17才)、カレッジ(18~19才)、大学(20~21才)
小学校年令層に占める就学者数(1981)(b) : 62%
中学校 " " : 15%
成人識字率(1977)(c) : 26.0%
- 貿 易 (d)
(1982) 貿易額(輸出入総額) : 3,186.5百万米ドル
輸出額(F.O.B.) : 768.0百万米ドル
アメリカ、パキスタン、モザンビーク、ソ連、スードン
輸入額(C.I.F.) : 2,418.5百万米ドル
日本、シンガポール、アメリカ、中国、インド
- 外貨準備総額 (b)
(1982) 207百万米ドル
- 対外公的債務残高 (b)
(1982) 4,353百万米ドル(対G.N.P.比 38.6%)
- 債務返済比率 (b)
(1982) 対G.N.P.比 1.0% 対輸出比 8.3%
- G N P (a)
(1982) 12,830百万米ドル (1人当たり 140米ドル)
- 消費者物価指数 (e)
(1980=100)

1981	1982	1983
113.2	123.7	133.7
- 会計年度 (出 典)
(a) : 世銀、World Bank Atlas 1984 (b) : 世銀、世界開発報告 1984
(c) : 世銀、World Tables 1983 (d) : IMF, Direction of Trade Statistics Yearbook 1984 (e) : IMF, International Financial Statistics, October 1984

バングラデシュは、ヒマラヤおよびチベットに各々源を発するガンジス、ブラマputra兩河の三角州地帯に位置し、南にベンガル湾をのぞむ。年間平均降雨量2,300ミリの熱帯モンスーン型気候である。

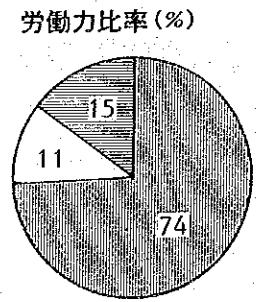
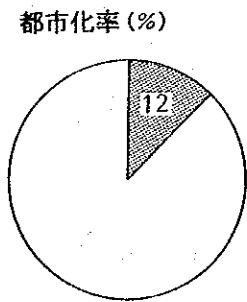
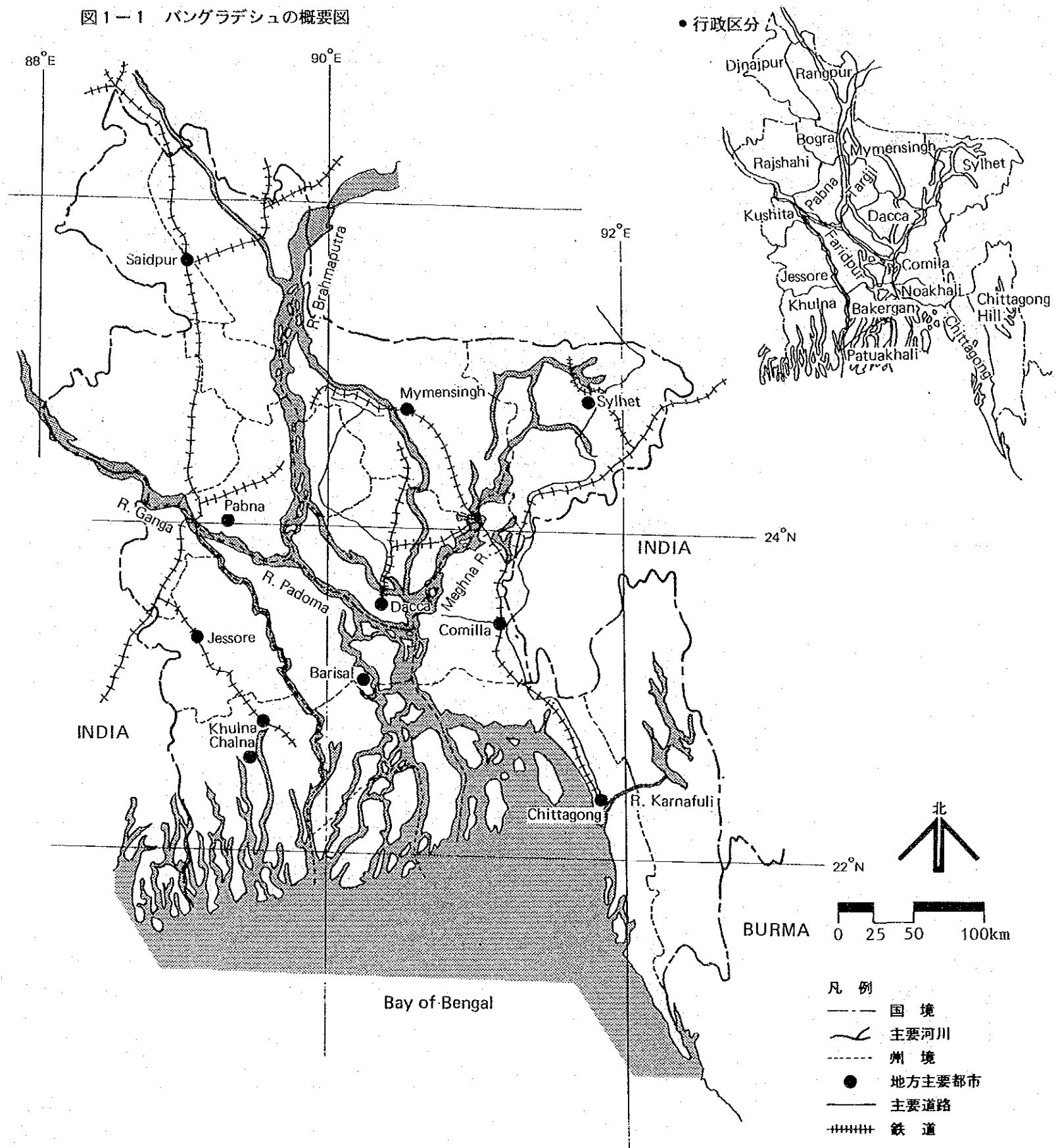
ベンガル地方には、古くはグプタ王朝、パーラ王朝など仏教王国が栄えたが、その後イスラム統治時代を経て英國の植民地となった。イスラム教徒の多い東ベンガルは、反英闘争の中、ヒンズー教徒と対立、1947年インド・パキスタンが分離独立した際、東パキスタンとなった。その後、西パキスタンに対し自治を要求、これに対するパキスタン政府の弾圧が印・パ戦争にまで発展したが、71年12月バングラデシュとして独立を達成した。

独立後の国家建設は厳しい状況のもとで、75年のクーデターを経て、82年の軍事クーデターによりゼアウル・ラーマン大統領から現エルシャド政権へと交代した。

バングラデシュ経済は、米・ジュート生産を中心とする農業に依存しながらも、未だ食糧自給が達成しえず、食糧および必要物資の輸入による貿易赤字を外国の援助で埋めざるを得ない構造になっている。このため現政権は、政府支出削減と食糧自給に努力する一方、主な輸出産業であるジュート・繊維部門等での国内民間投資および外国からの投資の奨励、農地改革他、諸改革措置を打診している。

また外交面では、近隣諸国との友好、イスラム諸国との関係保持、非同盟グループとの連携、を基本姿勢としている。

図1-1 バングラデシュの概要図



注) 労働力とは、経済活動を行う10歳以上の人口。
各部門のシェアはILO及び世銀による推定値である。

部門	農業部門 (農林水産業、狩猟)	工業部門 (鉱業、製造業、建設業、電気、水道ガス事業)	サービス部門 (上記2部門以外の全ての経済活動)
都市化率 (%)	12	15	74
労働力比率 (%)	11	74	15

(出典:世界開発報告/世銀 1984)

1-2 開発計画概況

1-2-1 既往の開発計画

第1次5カ年計画	1973/74-77/78	ムジブル・ラーマン政権(72.0~75.8) アハメド政権(75.8), サエム政権(75.11)
2カ年計画	1978/79-79/80	ゼアウル・ラーマン政権(77.4~81.5)
第2次5カ年計画	1980-85	ゼアウル・ラーマン政権, サッタル政権
改訂第2次5カ年計画	1980-85(現行)	チョウドリ政権(82.3~83.12)(81.11~83.12) エルシャド政権(83.12~現在)

【計画と成果】

(1) 第1次5カ年計画

本計画は、戦争により破壊された経済を復興し、貧困を克服し社会的公平を確立することを主目標としていた。GDP年成長率を5.5%と見込み、雇用機会の創出、海外援助依存率の減少に重点を置き、人口増加率を抑制するとしていた。実際は、国内外の資金源不足や計画遂行に必要な制度の未整備、熟練労働力不足により実施計画が実行されず、上記目標は大部分未完了のままとなっている。GDP年成長率は4.0%にとどまった。

1969/70~1977/78年における景気の波は激しく、年平均実質成長率は2.0%と低水準の伸びとなっている。独立後の経過は以下のとおり。

(1) 1972/73年では7.5%, 1973/74年では9.5%の高い伸びを示したが、(2) 1973年の石油危機、1974年の大洪水等が引き金となった経済不況に直面し、1974/75年の成長率は2.0%にとどまった。(3) 1975年にクーデターが起り、ムジブル・ラーマン政権からゼアウル・ラーマン政権へ移行し、第1次5カ年計画は有名無実化した。ただし、1975/76では経済成長率は9.7%まで回復した。1976/77年では農業部門の不振で年1.7%の伸びにとどまったが、1977/78年には7.9%の伸びを達成し、経済状況は好転した。

(2) 2カ年計画

第2次計画を引き続き実施することが困難であると判断され、また数多くのプロジェクトが未完了の状態であった。そのため利用可能な財源の範囲内で開発計画を完了すべく第2次5カ年計画の橋渡しとして1978/80年の2カ年計画が策定された。これによってGDP年成長率を5.6%(一人当たり所得で2.8%)と見込み、国内財源を利用することによる自力更生をねらった。しかしながら以上の目標に対し、年平均3.5%の伸びにとどまった。これは1979年の石油危機に加え、天候不良の影響を受けたためである。

表1-1 国内総生産の変化(1972/73年価格)

単位: 千万タカ

	1972/73	74/75	77/78	79/80	伸び率%		
					第1次5ヶ年計画 1973-78	2ヶ年計画 1978-80	1973-80
農業	2,722	2,970	3,454	3,580	4.9	1.8	4.0
製造業	330	374	513	537	9.2	2.3	7.2
建設業	144	176	268	373	13.2	18.0	14.5
電力・ガス	8	10	16	20	14.9	11.8	14.0
住宅	236	249	281	304	3.6	4.0	3.7
商業・輸送・その他	1,090	1,281	1,557	1,707	7.4	4.7	6.6
総計	4,530	5,060	6,089	6,521	6.1	3.5	5.3

注:要素費用表示による

出典: The Second Five Year Plan 1980-85

1-2-2 現行の開発計画（第2次5カ年計画、1980-1985）

第2次計画は長期20カ年計画（1980-2000）の第一段階として位置づけられている。1980年に第2次5カ年計画が開始されたが、国際経済情勢の変化等から計画の修正が行われ、計画規模の大幅削減、1983年に改訂第2次5カ年計画が作成された。ただし、計画目標には大きな変化はない。

〔目標〕

- ①生活水準の均等化
- ②食糧自給の早期達成
- ③雇用機会の増大
- ④人的資源開発のための教育水準の向上
- ⑤人口増加率の抑制
- ⑥地方行政改革の推進
- ⑦国内財源の有効利用と国際収支改善

〔戦略〕

- ①農村地域開発の重視
- ②農業生産の拡大
- ③地方レベルでの生産体制の強化
- ④地域計画の推進
- ⑤産業振興
- ⑥公的機関と民間部門のバランスのとれた発展
- ⑦人口増加抑制
- ⑧教育水準向上
- ⑨人的資源開発
- ⑩資源利用
- ⑪物価安定

表1-2 国内総生産（1979/80年価格）

単位：千万タカ

	金額		年平均伸び率%		
	1979/80 実績	1984/85 推計	1980-85	1980-82	1982/83
1. 農業	8,919.1	11,418.5	5.0	3.2	5.1
穀物	4,931.3	6,278.5	4.9	3.7	5.1
その他	3,987.8	5,140.0	5.2	2.4	5.1
2. 製造業	1,421.6	2,124.4	8.4	5.8	0.8
3. 建設業	928.9	1,174.9	4.8	1.5	-4.6
4. 電力・ガス	36.9	77.6	16.0	14.3	17.0
5. 住宅	1,146.4	1,329.0	3.0	3.0	3.0
6. 輸送	1,127.9	1,486.6	5.7	2.0	2.0
7. 商業	1,265.9	1,670.2	5.7	2.0	2.0
9. その他サービス	2,432.3	3,190.8	5.7	5.4	5.7
GDP(要素費用)	17,279.0	22,472.0	5.4	3.5	3.8

出典：The Second Five Year Plan 1980-85

[貿易]

(1) 輸入

計画期間中の総輸入額は、1979/80 から 1984/85 にかけて微増となっている。穀物輸入は輸入額に占める割合が 1979/80 年の 26 % から 1979/80 には 11.3 % と減少する。食糧以外の品目については年率 5.5 % の増加を見込んでいる。

(2) 輸出

輸出は年平均増加率 8.6 % を見込んでいる。

[国際収支]

外貨不足を ODA、国際機関による援助、外国民間投資により補う形をとっている。

表 1-3 国際収支 (1979 / 80 年価格)

単位：千万タカ

内訳	1979-80	1984-85	計 (1980/85)
1. 輸入	- 4,054	- 4,310	20,377
2. 輸出	1,510	2,145	9,458
3. 貿易収支 (1 + 2)	- 2,544	- 2,165	- 10,919
4. 貿易外収支	-	682	2,710
5. 移転収支	407	916	3,611
6. 資本収支	- 2,137	- 1,931	- 10,018
7. 債務返済 (1 M.F 分除く)	- 104	- 118	- 864
8. 準備金の変動	183	-	36
9. 外貨準備高	- 2,058	- 2,049	- 10,846

出典：The Second Five Year Plan 1980-85

[財政]

1979/80 の歳入は 10,040 千万タカ、このうち税収入が約 80 % を占め、8,141 千万タカである。

表 1-4 政府財政 (1979 / 80 年価格)

単位：千万タカ

1. 岁出	12,553
2. 岁入	10,369
国内調達分	3,639
外国援助	6,730
3. 不足分調達	2,184

出典：The Second Five Year Plan 1980-85

2 経済・技術協力の推移

2-1 援助活動の推移

バングラデシュに対する政府開発援助の実績は、1970年代において以下の様な推移を見せた。

- (1) 一般動向 1975年、76年の急増及び急減を除けば、バングラデシュに対するODAは70年代を通じてほぼ着実に増加の傾向にあった。73年の第一次石油ショックとそれに続く74年の大洪水による飢餓は、特にアメリカの援助額を急増させたが、一転1975年のクーデター発生後の政局の不安定化に伴ない急減した。
- (2) 援助主体別推移 援助主体別には、概ね二国間6割強、国際機関3割OPEC諸国1割弱のシェアで推移してきた。イスラム教諸国との関係は近年特に重要になっており援助額も増加傾向にある。バングラデシュはその地理的、歴史的関係からインド、ソ連及びパキスタン、中国等からの直接、間接の援助も受け入れているがその額は不明である。
- (3) 援助形態別推移 1971年の独立後2年間は全額贈与で占められていたがその後借款も増加し、70年代累計では、贈与6割、借款4割の比率である。贈与は無償資金協力が中心であり、特に1977年以降急速に増加した。これは、主要援助国が借款から贈与に重点を移したこと、又債務の贈与への切り替え等があったためであり、特に1980年の債務救済は、4億3千万ドル（約1千億円）に達している。
- (4) 主要援助国 バングラデシュは西側諸国、国際機関から広く援助を受け入れており、世銀主催による援助国議のメンバー国及び機関がそれぞれ5～10%のシェアを受け持っている。この中で二国間援助では、70年代後半から日本が15%の程度のシェアで第一位援助国となっており、一方国際機関内では、IDAが最大援助機関となっている。

2-2 最近の援助動向

1981年度は主要援助国におけるODA総額の伸び悩み、及びバングラデシュの政変等を背景として、援助額は対前年比△13%の落ち込みを見せたものの1982年度にはすぐ回復し過去最高の134億ドル（約3,360億円）に達した。

援助主体別、形態別共に、特に大きな変化は見られないが、1982年度OPEC諸国による援助の急増が顕著である。

●援助主体別比率の変化(%)

	国際機関	OPEC諸国	
1971 ～80	66	29	5
1981 ～82	61	32	7

●援助形態別比率の変化(%)

	技術協力	無償資金	借款
1971 ～80	9	54	37
1981 ～82	12	53	35

バングラデシュに対する政府開発援助(ODA)額の経年推移(1971~1982年)

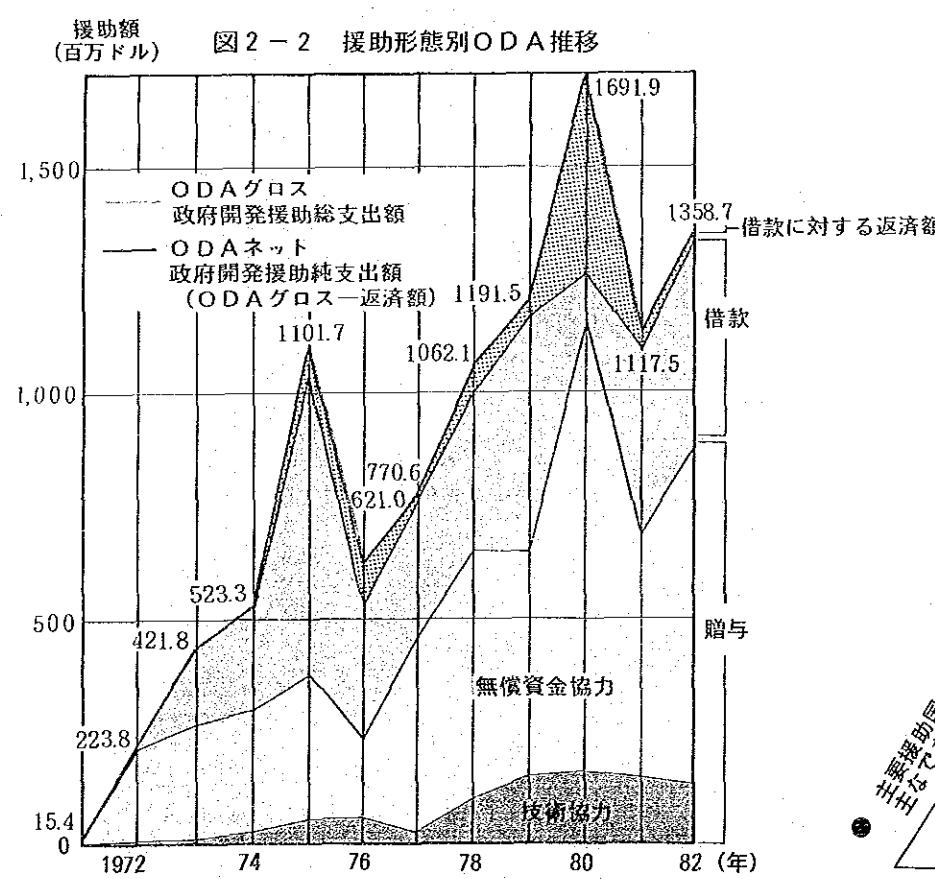
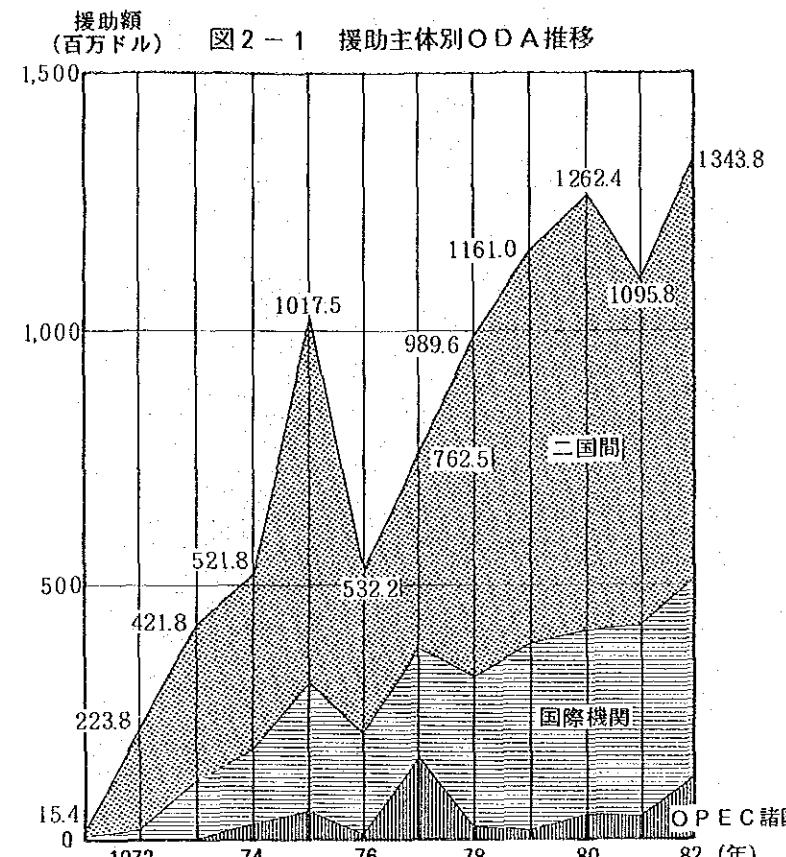
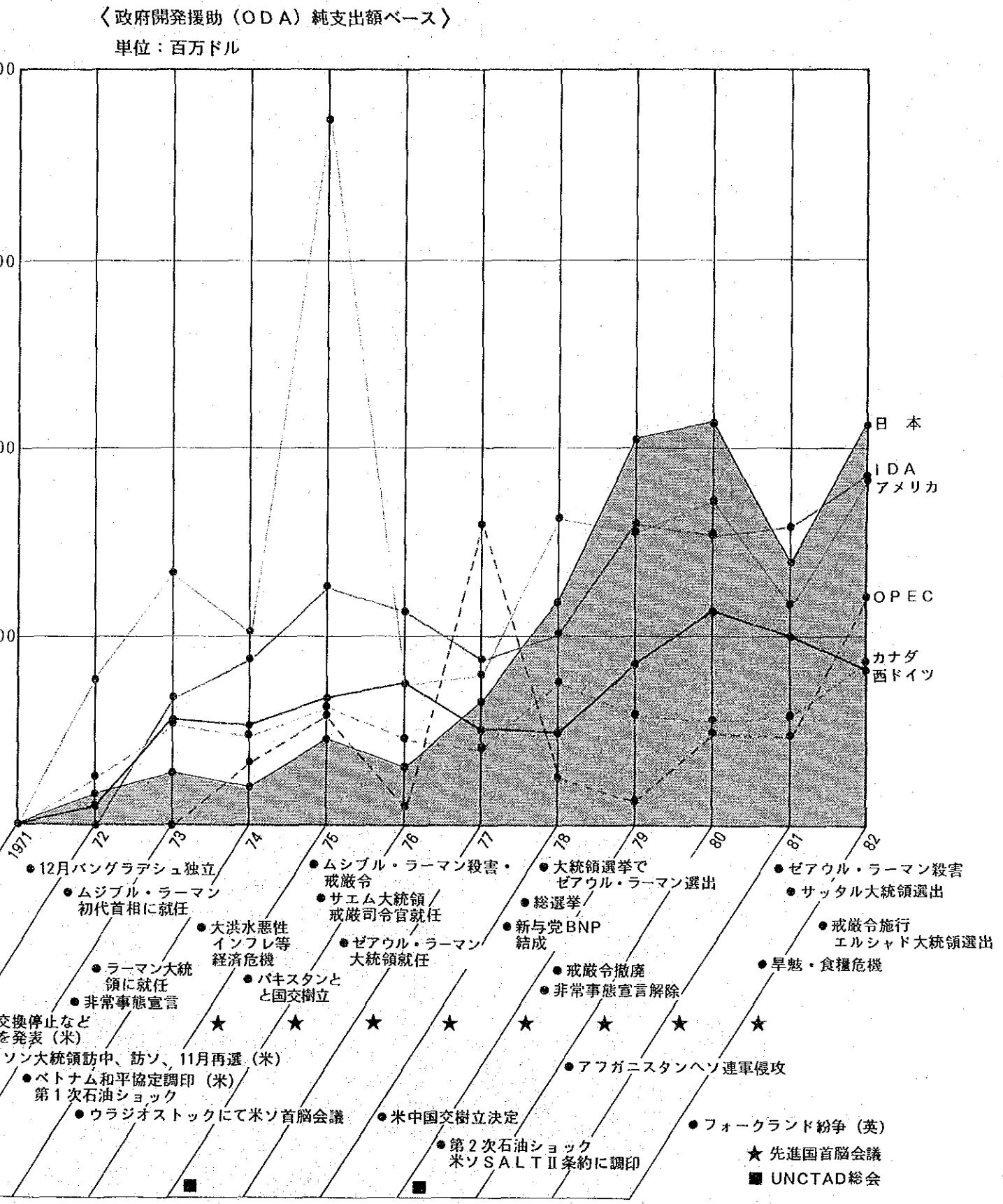


図2-3 主要援助国・国際機関別ODA推移



(出典: Geographical Distribution of Financial Flows to Developing Countries OECD/1978, 82, 84)

バングラデシュ 7

図2-4 主要援助国・国際機関による対バングラデシュ政府開発援助（ODA）の実績

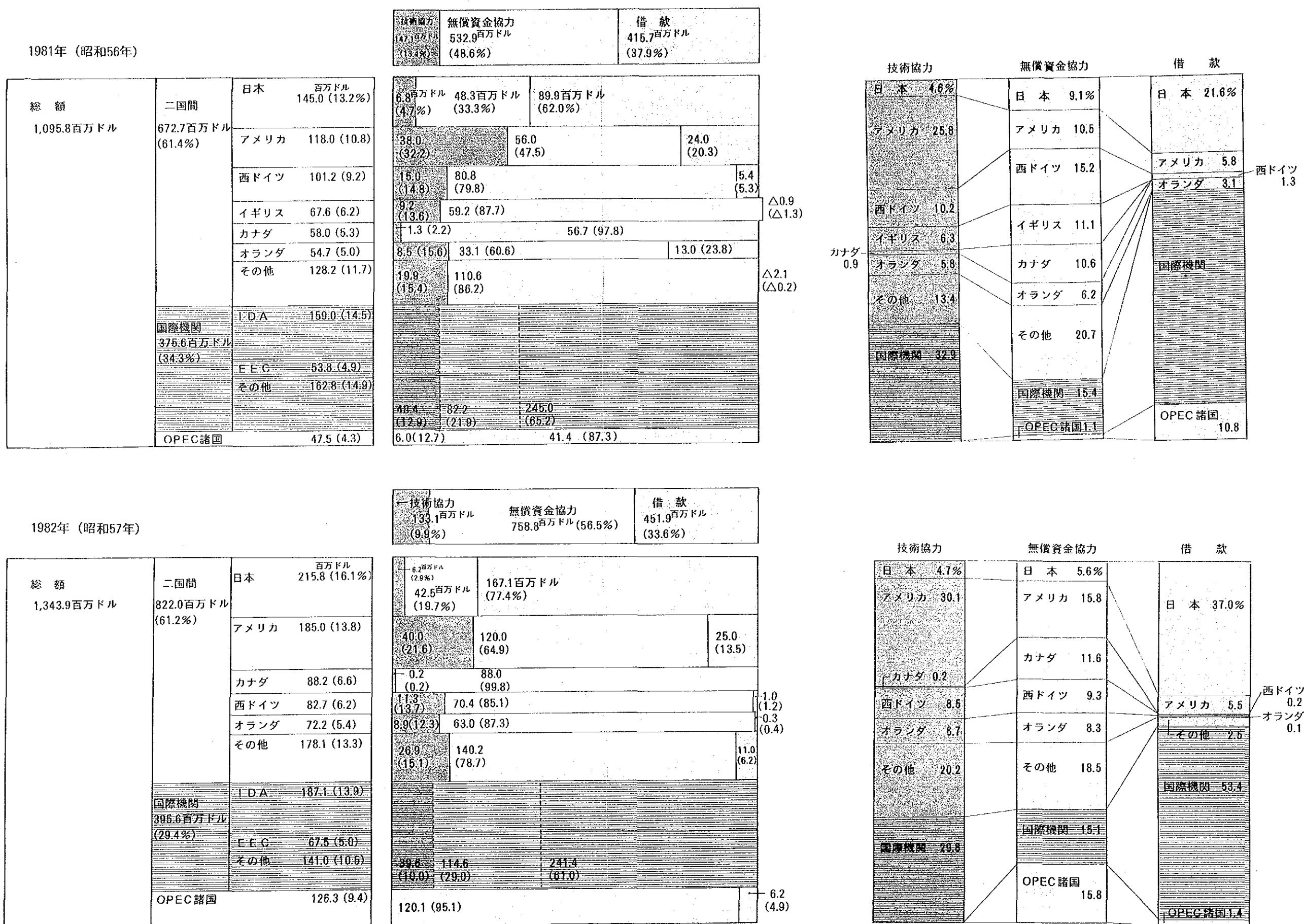


表2-1 1981年対バングラディッシュ政府開発援助(ODA) 実績総括表

援 機	助 國 閥	技術協力		無償資金協力		借款		政府開発援助総額	
		金額 (百万ドル)	全体比 (%)	金額 (百万ドル)	全体比 (%)	金額 (百万ドル)	全体比 (%)	金額 (百万ドル)	全体比 (%)
二 国 間 援 助	日本	6.8	(4.6)	48.3	(9.1)	89.9	(21.6)	145.0	(13.2)
	アメリカ	38.0	(25.8)	56.0	(10.5)	24.0	(5.8)	118.0	(10.8)
	西ドイツ	15.0	(10.2)	80.8	(15.2)	5.4	(1.3)	101.2	(9.2)
	イギリス	9.2	(6.3)	59.2	(11.1)	-0.9	(-0.2)	67.6	(6.2)
	カナダ	1.3	(0.9)	56.7	(10.6)	0.0	(0.0)	58.0	(5.3)
	オランダ	8.5	(5.8)	33.1	(6.2)	13.0	(3.1)	54.7	(5.0)
	オーストラリア	3.3	(2.2)	22.5	(4.2)	0.0	(0.0)	25.8	(2.4)
	フランス	0.2	(0.1)	30.6	(5.7)	-6.4	(-1.5)	24.5	(2.2)
	その他	16.4	(11.1)	57.5	(10.8)	4.3	(1.0)	77.9	(7.1)
(小計)		98.7	(67.1)	444.7	(83.4)	129.3	(31.1)	672.7	(61.4)
国 際 機 関	I D A	—	(—)	—	(—)	—	(—)	159.0	(14.5)
	E E C	—	(—)	—	(—)	—	(—)	53.8	(4.9)
	A D B	—	(—)	—	(—)	—	(—)	44.8	(4.1)
	W F P	—	(—)	—	(—)	—	(—)	28.0	(2.6)
	その他	—	(—)	—	(—)	—	(—)	90.0	(8.2)
(小計)		48.4	(32.9)	82.2	(15.4)	245.0	(58.9)	375.6	(34.3)
O P E C 諸国		0.0	(0.0)	6.0	(1.1)	41.4	(10.0)	47.5	(4.3)
合 計		147.1	(100.0)	532.9	(100.0)	415.7	(100.0)	1095.8	(100.0)

表2-2 1982年対バングラディッシュ政府開発援助(ODA) 実績総括表

援 機	助 國 閥	技術協力		無償資金協力		借款		政府開発援助総額	
		金額 (百万ドル)	全体比 (%)	金額 (百万ドル)	全体比 (%)	金額 (百万ドル)	全体比 (%)	金額 (百万ドル)	全体比 (%)
二 国 間 援 助	日本	6.2	(4.7)	42.5	(5.6)	167.1	(37.0)	215.8	(16.1)
	アメリカ	40.0	(30.1)	120.0	(15.8)	25.0	(5.5)	185.0	(13.8)
	カナダ	0.2	(0.2)	88.0	(11.6)	0.0	(0.0)	88.2	(6.6)
	西ドイツ	11.3	(8.5)	70.4	(9.3)	1.0	(0.2)	82.7	(6.2)
	オランダ	8.9	(6.7)	63.0	(8.3)	0.3	(0.1)	72.2	(5.4)
	イギリス	8.2	(6.2)	31.7	(4.2)	-1.1	(-0.2)	38.8	(2.9)
	オーストラリア	4.8	(3.6)	32.3	(4.3)	0.0	(0.0)	37.1	(2.8)
	その他	13.9	(10.4)	76.2	(10.0)	12.1	(2.7)	102.2	(7.6)
	(小計)	93.5	(70.2)	524.1	(69.1)	204.4	(45.2)	822.0	(61.2)
国 際 機 関	I D A	—	(—)	—	(—)	—	(—)	187.1	(13.9)
	E E C	—	(—)	—	(—)	—	(—)	67.5	(5.0)
	W F P	—	(—)	—	(—)	—	(—)	44.1	(3.3)
	A s D B	—	(—)	—	(—)	—	(—)	33.3	(2.5)
	その他	—	(—)	—	(—)	—	(—)	63.6	(4.7)
(小計)		39.6	(29.8)	114.6	(15.1)	241.4	(53.4)	395.6	(29.4)
O P E C 諸国		0.0	(0.0)	120.1	(15.8)	6.2	(1.4)	126.3	(9.4)
合 計		133.1	(100.0)	758.8	(100.0)	451.9	(100.0)	1343.8	(100.0)

注) 四捨五入の関係で内訳の計が、合計欄の数値と一致しないことがある。

出典: Geographical Distribution of Financial Flows to Developing Countries OECD/1984

3 主要援助国・国際機関による援助の実績と特徴

3-1 主要援助国・国際機関別援助の特徴

DAC 援助国の援助額からみた援助形態別貢献度は図 3-1 に示す通りである。1982 年における実績値でみると、貢献度は以下のとおり。

対バングラデシュ援助で最も貢献度の高い国は、日本、アメリカ、カナダ、西ドイツ、オランダであり、この上位 5ヶ国で対バングラデシュ贈与額の 50.5 %を占める。これに OPEC 諸国からの援助を含めると、この割合は 64.0 %となる。借款では二国間援助での日本の比重が圧倒的に高く、ODA 借款総額の 37 %、二国間援助借款相当額の約 80 %を占めている。

バングラデシュへの援助は独立の翌年である 1972 年から本格化しているが、アメリカの援助はバングラデシュにおける食糧需給動向および政権の変化等に敏感に反応している。これに対し、日本および IDA は比較的安定した援助を継続的に実施している。

諸外国の対バングラデシュ 援助は最貧困向け援助の意味合いが強く、その援助条件も緩やかである。

各国の援助はバングラデシュの国家経済開発の最重点分野である農林水産業に集中しており、また、食糧援助、商品援助の比重が比較的高くなっている。

図 3-1 援助形態別主要援助国・国際機関の推移

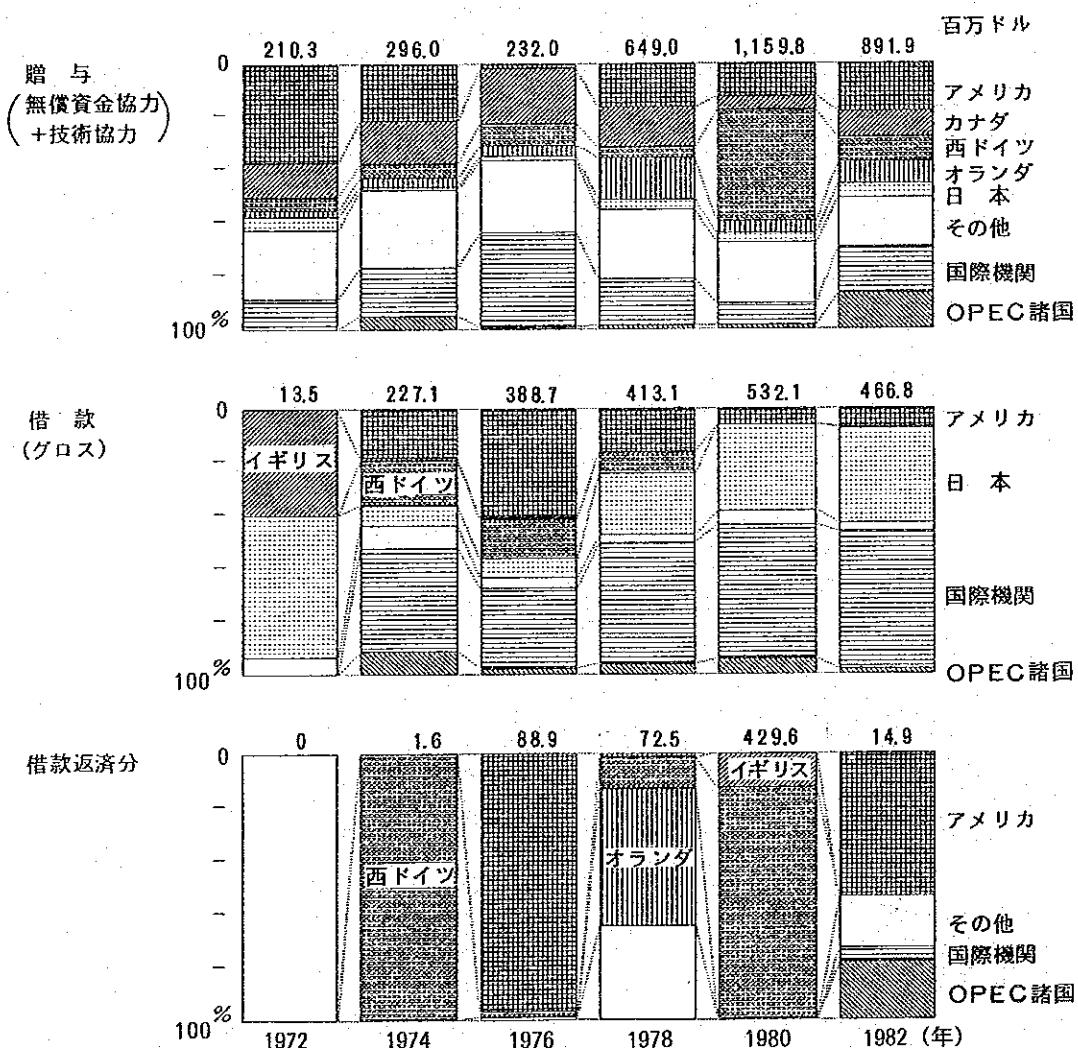
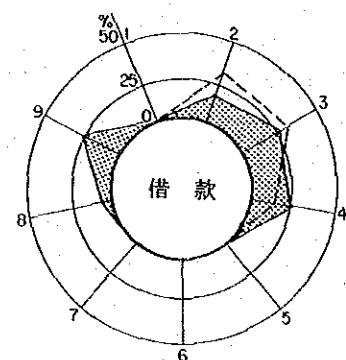
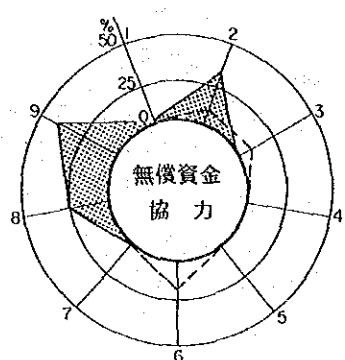
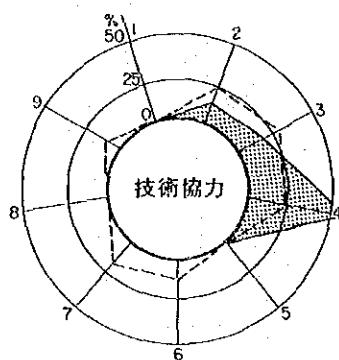
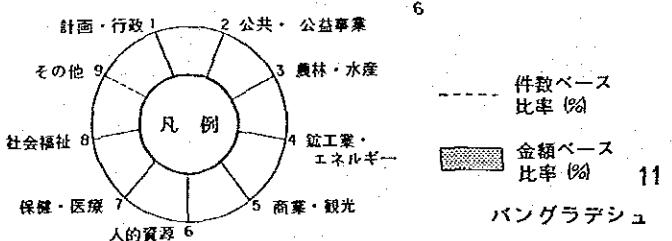
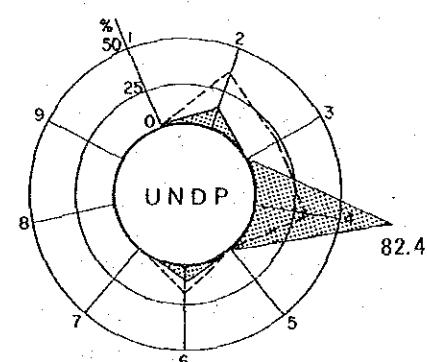
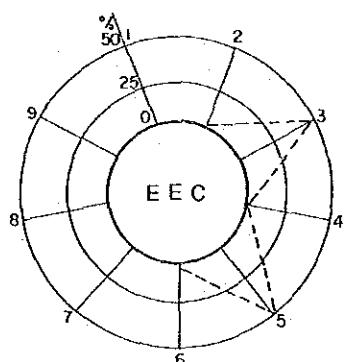
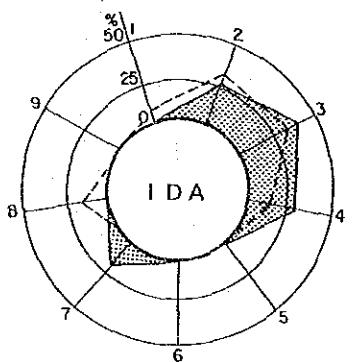
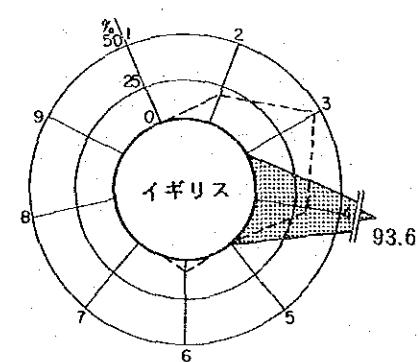
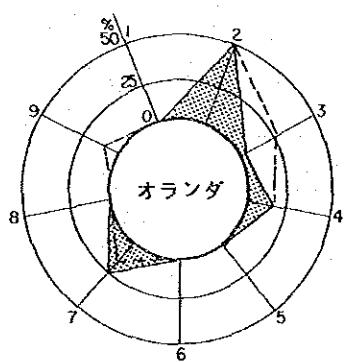
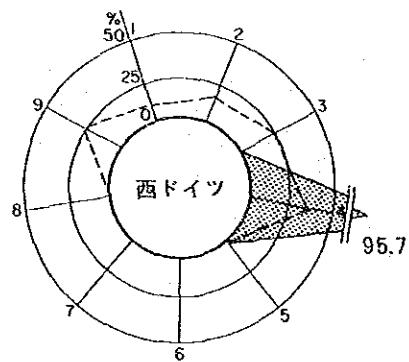
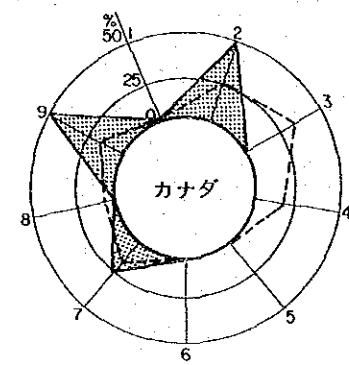
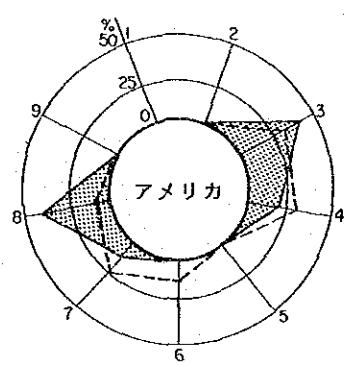
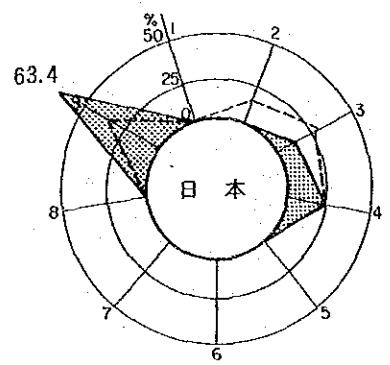


図3—2 援助分野にみる主要援助国・国際機関の特徴（1981年）

・援助形態別合計



・主要援助国・国際機関別特徴



出典：

Bangladesh Development Assistance Report (1981); World Bank Resident Mission and UNDP Office, Dacca (Nov. 1982)

日本

(1) ODA(純支出額)及び贈与比率の実績

1981年 145.0百万ドル (38.0%)

1982年 215.8百万ドル (22.6%)

(2) ODA(純支出額)の推移

日本のバングラデシュ向け二国間ODA実績(ネット・ディスパースメント・ベース)は72~82年累計で1,113.9百万ドルに上り、同期間にバングラデシュが受取ったODA累計額の12.0%を占めている。このわが国のバングラデシュ向け援助累計額はアメリカ、IDAに次ぐ援助額となっている。

79年以降わが国の援助実績は二国間援助供与国としてアメリカの実績を上回っており、わが国がバングラデシュにとって第1位の援助供与国となっている。一方、わが国にとっての援助供与対象国としてのバングラデシュの位置を見ると、バングラデシュ向け援助累計額(72~82年)は60年から82年までのわが国の開発途上国向け全世界向け援助総額の9.12%を占めている。82年単年実績では、援助額215.8百万ドルで、同年のわが国の全世界向け援助総額の9.12%を占めており、バングラデシュはわが国にとって、中国、インドネシアに次ぐ第3位の援助対象国となっている。

(3) 形態別・分野別特徴

a 日本の対バングラデシュODA額は1972から82年まで、概ね増加傾向で推移している。日本のバングラデシュに対する援助は、同国の独立戦争に係わる援助及び復興を目的とするK.R.食糧援助(E/N 1972年3月)に始まり、その後一般無償資金協力及び種々の技術協力に加え74年からは同国の第1次5カ年計画の実施を契機として円借款が開始されている。77年になると、無償資金協力、技術協力、借款のすべての形態で供与額が増加、以後、各形態ごとに供与額を伸ばしている。しかし、80年には、増加の伸びが鈍化し、81年に落ち込んで、82年は再び80年のレベルに回復している。80年以降のこの増減はODA額のうち借款資金の流れの増減を反映したものである。これを借款のコミットメント状況からみると、80年度分(第8次及び第9次円借款)として330億円、82年度分(第11次円借款)として275億円のE/N締結があり、借金の流れの増減と呼応している。

O E C D, Geographical Distributionによると、1981年の形態別配分は技術協力4.7%, 無償資金協力33.3%, 借款62.0%となっている。

現在の日本のバングラデシュ向け援助は無償資金協力では一般無償、円借款では商品借款が中心となっている。技術協力は研修員受入、専門家派遣、及び調査団派遣による開発調査、青年海外協力隊派遣等が中心となっており、プロジェクト方式技術協力も比較的多い。

援助条件を見ると、円借款の貸付条件は79年の案件以降金利1.25%, 借還期間30年(うち据置期間10年)でグラント・エレメント72.54%という最も緩い条件となっている上、日本は無償資金協力の拡大に注力している。しかし、日本以外の国によるバングラデシュ向け援助は過去の借款を贈与へ切換え、また新規援助については殆ど全額を贈与ベースとしており、これに比べ日本のバングラデシュ向け援助に占める借款の比率は高い。

b 分野別特徴

1982年度実施プロジェクトの分野別配分をみると、援助形態ごとに重点分野が異なっている。

(i) 技術協力—農林・水産関係、保健医療関係が多くなっている。

(ii) 無償資金協力—農林・水産関係に重点が置かれている。

(iii) 借款—E/Nベースでプロジェクト借款は3件あり、すべて鉱工業・エネルギー分野の案件である。他に商品借款が供与されている。

74年から82年までの円借款の内訳の2/3までが商品借款にあてられ、対バングラデシュ円借款の中で商品借款の占める比率は高い。82年度でもプロジェクト借款3案件の合計額が95億円なのに対し、商品借款は180億円となっている。

・経済・技術協力プロジェクト

の分野別配分(1982)

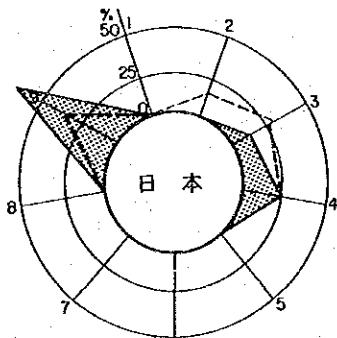
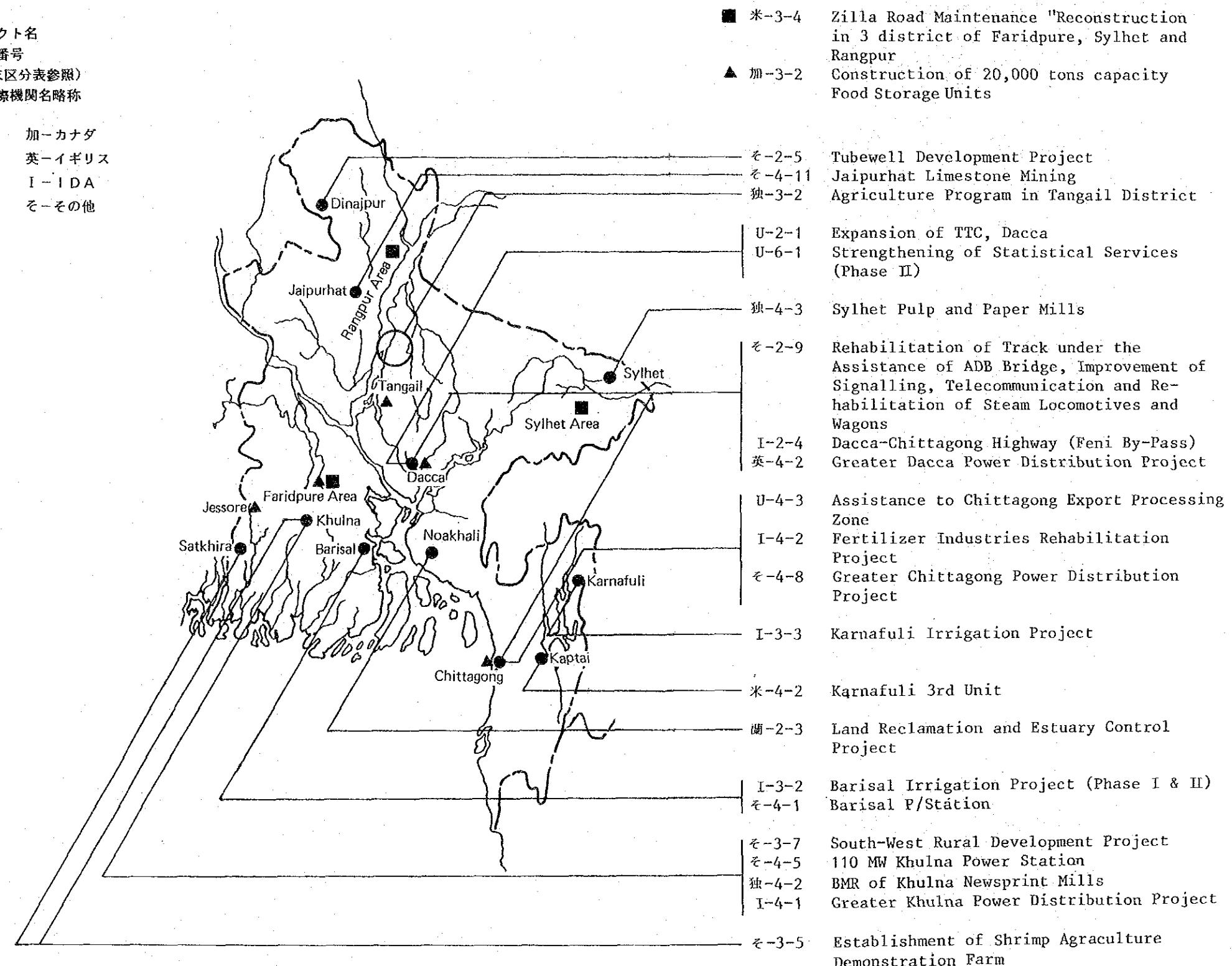


図3-3 主要経済技術協力プロジェクト位置図

凡例 A-1-1・プロジェクト名
 └分野内通し番号
 └分野区分(巻末区分表参照)
 └主要援助国・国際機関名略称

米-アメリカ	加-カナダ
独-西ドイツ	英-イギリス
蘭-オランダ	I-IDA
U-UNDP	そ-その他



● 広域プロジェクト等

- | | | | |
|-------|--|--------|--|
| 米-2-1 | Area Coverage Rural Electrification | I-3-4 | Meghna-Dhonagoda Irrigation Project |
| 米-2-2 | Area Coverage Rural Electrification Phase II | I-3-5 | Second Fertilizer Import |
| 米-3-1 | Strengthening of Bangladesh Agriculture Research Council (BARC) Phase I & II | I-3-6 | Fertilizer Transport Project |
| 米-3-2 | Construction of Fertilizer Godown Phase II | I-4-4 | Textile Industries Rehabilitation Project (BMR of Textile Mills First Phase) |
| 米-3-3 | Small Scale Irrigation Project (Hand Pump Tubewell) | I-6-1 | Fourth Education (Primary) Project |
| 米-4-1 | Agro-Climatic/Environmental Monitoring Technical Resources | I-6-2 | Vocational Training Project |
| 米-6-1 | | I-7-1 | Construction of Union Family Welfare Centres throughout Rural Bangladesh |
| 米-7-1 | Voluntary Sterilization Program (UNFPA) | U-2-2 | Development of Broadcasting Services (UNESCO) |
| 米-7-2 | Population/Family Planning | U-2-3 | Ground Water Survey |
| 米-7-3 | Family Planning Services | U-2-4 | Civil Aviation Department (ICAO) |
| 米-7-4 | Palli Chikitsak Training | U-4-1 | Textile Industry Development Programme Project |
| 米-8-1 | Food Assistance-PL 480 Title II | U-4-2 | Pilot Plastics Processing, Testing, Training and Information Centre (Plastics Technology Centre) |
| 米-8-2 | Food Assistance-PL 480 Title III | U-4-4 | Management Development (ILO) |
| 米-9-1 | PVO Co-Financing I & II | U-6-2 | Development of Vocational Training (ILO) |
| 加-2-1 | Procurement of 77 Main Diesel Engine Locomotives (BG 42 & MG 35) | ぞ-2-1 | Bangladesh Biman |
| 加-2-2 | Locomotives Spares & Equipment | ぞ-2-2 | Procurements of 386 Passenger Carriages (BG 117 & MG 269) |
| 加-2-3 | Technical Assistance | ぞ-2-3 | One Cargo Vessel |
| 加-2-4 | Construction of Appurtenant Structures | ぞ-2-4 | Pabna Irrigation and Rural Development Project Phase II |
| 加-2-5 | Re-engining | ぞ-2-6 | Main Line Diesel Engine Locomotives (BG 12 & MG 18) |
| 加-3-1 | Fertilijer | ぞ-2-7 | Procurement of 1255 Wagons (BG 608 & MG 647) |
| 加-3-3 | Wheac Program | ぞ-2-8 | Shunting Diesel Engine Locomotives |
| 加-8-1 | Food Aid | ぞ-2-10 | Area Coverage Rural Electrification Phase-I Extension |
| 加-9-1 | Commodities | ぞ-3-1 | Rehabilitation of Chittagong Fisheries Harbour |
| 加-9-2 | Commodities | ぞ-3-2 | Introduction for Motorized Boats in Bay of Bengal |
| 独-2-1 | Railway Experts | ぞ-3-3 | Expamded Rubber Plantation and Processing Project |
| 独-3-1 | Strengthening of Protection Services for Quality Control of Pesticides, Rodent Control and Aerial Spraying | ぞ-3-4 | EEC Financed Storage Construction Project |
| 独-4-1 | Advisors to Petrobangla | ぞ-3-8 | Bangladesh Tea Rehabilitation Project |
| 独-7-1 | Population Program under Bilateral Agreement | ぞ-4-2 | Bakhrabed Gas Development Project |
| 独-9-1 | General Commodity Grants | ぞ-4-3 | Swiss-Bangladesh Project for Sericulture |
| 英-3-2 | U.K. Financed Rehabilitation Project | ぞ-4-4 | Greater Chittagong Power Distribution Project |
| 蘭-2-1 | Putch aided Small Projects (Early Implementation Projects) | ぞ-4-6 | East Zone Emergency Power System Replacement Programme |
| 蘭-2-2 | Establishment of design Center for IWT machanisea draft | ぞ-4-9 | Chittagong Area Fertilizer Project |
| 蘭-3-1 | Construction of 12,000 tons Capacity Food Storage Units | ぞ-4-10 | Polash Area Fertilizer Project |
| 蘭-7-1 | Medical Assistants Training Program (MATP) | ぞ-6-1 | Universal Primary Education (Non-Aided) |
| 蘭-9-1 | Dredger Spares | ぞ-6-2 | Universal Primary Education |
| I-2-1 | Small Scale Drainage and Flood Control | ぞ-7-1 | Family Planning Scheme |
| I-2-3 | Drainage and Flood Control | ぞ-7-2 | Second Population and Family Health Project |
| I-2-5 | Area Coverage Rural Electrification Phase II | ぞ-8-1 | NA Feeding Rehabilitation of Vulnerable Groups |
| I-3-1 | Extension and Research II | ぞ-9-1 | Commodity Assistance |

アメリカ

(1) ODA(純支出額)及び贈与比率の実績

1981年 118.5百万ドル (79.3%)

1982年 185.0百万ドル (86.5%)

(2) ODA(純支出額)の推移

バングラデシュの独立戦争の際、アメリカはパキスタン支援を強化という経緯があり、独立直後、バングラデシュとの経済協力関係は極めて希薄であった。しかしながら、その後アメリカは比較的速やかにバングラデシュを承認し、独立の翌年、1972年にはアメリカの対バングラデシュ援助が開始され、同時に積極的な援助活動を推進した。

75年に借款供与額が急激に増加している(333.0百万ドル)。これは対前年比で8倍に相当し、他の援助供与国を圧倒的に上まわるODA額となっている。この借款の主たる用途は、480のtitle I(借款)による食糧援助に充てられている。すなわち、バングラデシュは1974年の後半、1943年以来の大飢饉に見舞われ、この食糧不足に対する援助である。バングラデシュ側の資料によると、1974/75会計年度アメリカの食糧援助はすべて有償で、米22.0万トン、小麦45.1万トン、1975/76会計年度の食糧援助もすべて有償で、米39.5万トン、小麦55.9万トンであった。

その後状況は好転し、76年食糧援助は減少、ODA額は落ち込んだが、76年以後80年まで再び増加傾向にある。81年5月ラーマン大統領が暗殺されると一時的に外国援助が減少し、アメリカの援助額もやや落ちこんだ。しかし、1982年3月エルシャド政権誕生後は再び増加している。

(3) 形態別・分野別特徴

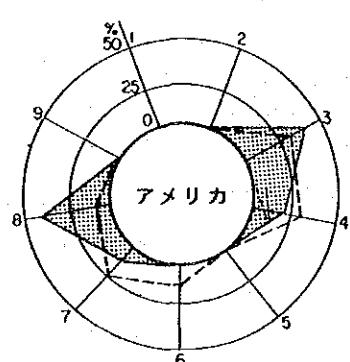
バングラデシュ向け援助は、独立直後の緊急食糧援助に始まっている。73年には、プロジェクト援助も開始された。当初の援助は独立戦争によって破壊されたインフラストラクチャーの復興・重建を目的としていた。現在、USAIDの開発援助政策——農業、人口、保健、教育、エネルギーを重点分野とする——に従って援助が行われている。

特にバングラデシュの社会経済情勢を配慮して、①人口抑制、②食糧増産、③非農業部門での雇用機械創出、④エネルギー資源開発を援助集中分野としてとりあげている。

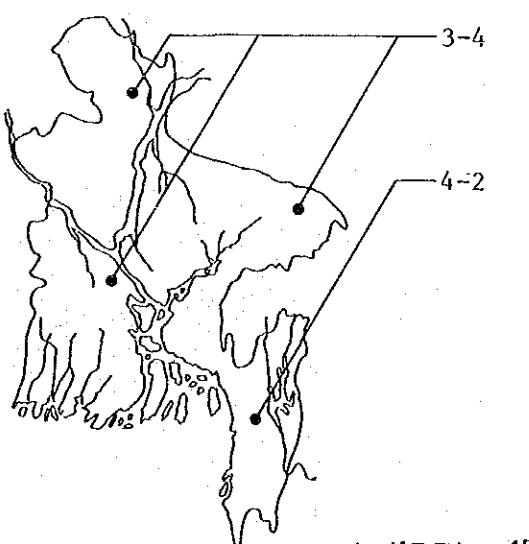
アメリカのバングラデシュ向け援助は独立直後72、73年は全額、あるいはほとんど全額が贈与であったが、その後借款が拡大した。しかし再び78年以降は贈与が中心となっており、81年実績(ネット・ディスバースメントベース)でも贈与がODAの79.7%を占めている。アメリカの途上国援助の援助条件をみると、グラント・エレメントは81年93.3%(コミットメント・ベース)で、80年90.5%からさらに条件がソフト化している。またアメリカは原則としてもLDC向けの援助は贈与を中心しており、借款の場合でも、その条件を援助受入国の所得水準に関連づけて、最貧困に対する援助条件をできる限りソフトなものとする政策を探っている。

UNDP資料に基づく、1981年進行中の全プロジェクトの分野別配分は、件数ベースで農林・水産33.3%，鉱工業・エネルギー25.9%，保健・医療18.5%，人的資源7.4%，社会福祉7.4%となっている。

・経済・技術協力プロジェクト
の分野別配分(1982)



・プロジェクト位置図



●主要経済技術協力プロジェクト

番号	プロジェクト名・概要	サイト	期間	供与期間 (千ドル)	備考
米-2-1	Area Coverage Rural Electrification — 農村 13 地域 5,852 平方マイル電化。5,643 マイルの配電線の建設	—	1978-83	⑧ 45,980 ⑨ 69,300	
米-2-2	Area Coverage Rural Electrification Phase II — 農村 4 地域 1,726 平方マイル電化。2,100 マイルの配電線の建設	—	1982-86	⑧ — ⑨ 19,800	
米-3-1	Strengthening of Bangladesh Agriculture Research Council (BARC) Phase I & II — 農業調査、研究のための国家政策を向上。国家目標・計画を公式化することでプライオリティーを認証	—	1976-87	⑧ 1,389 ⑨ 20,725	
米-3-2	Construction of Fertilizer Go-down Phase II — 計 175 トンの肥料を輸入し、各地の戦略地点の貯蔵庫に収納	—	1978-85	⑧ 23,579 ⑨ 235,000	
米-3-3	Small Scale Irrigation Project (Hand Pump Tubewell) — 掘抜き井戸を普及させ、農業生産を向上。かんがい設備の供与	—	1976-82	⑧ 5,094 ⑨ 14,000	有償
米-3-4	Zilla Road Maintenance "Reconstruction in 3 districts of Faridpur, Sylhet and Rangpur — フィダー・ロード網の改良及び既存の農園、市場の整理	Faridpure Sylhet Rangpur	1981-84	⑧ n/a ⑨ 9,200	
米-4-1	Agro-Climatic /Environmental Monitoring — 土壤、水、森林資源のマネジメントを改善。農業風土上の環境に関するデータを収集、分析、普及する政府の能力を向上	—	1980-84	⑧ 7 ⑨ 5,900	
米-4-2	Karnafuli 3rd Unit — カプタイ水力発電所に 50 MW の第 3 自家発電装置を設置	Kaptai	1966-67 80-81	⑧ 8,526 ⑨ 10,200	
米-6-1	Technical Resources — 技術援助。政府男女職員の研修。政策調査、プロジェクト開発、マネジメント、評価等を改善	—	1979-84	⑧ 712 ⑨ 11,000	
米-7-1	Voluntary Sterilization Program (UNFPA) — 不妊化 339 万 7,000 ケース実施のため、財政、ロジスティックス援助	—	1980-85	⑧ N/A ⑨ 15,030	
米-7-2	Population /Family Planning — 政府の家族計画改善に援助。避妊具の運用、調査、技術協力、研修などを実施	—	1973-83	⑧ 2,312 ⑨ 37,397	

番号	プロジェクト名・概要	サイト	期間	供与期間 (千ドル)	備考
米-7-3	Family Planning Services — 政府の避妊具使用普及プロジェクトを支援。運用調査、避妊具器材、研修のための基金を供与	—	1981-84	⑧ 906 ⑨ 64,860	
米-7-4	Palli Chikitsak Training — 農村地域における低コスト保健・家族計画サービスの普及	Palli Chikitsak	1981-85	⑧ 906 ⑨ 6,900	
米-8-1	Food Assistance -PL 480 Title II — 5年間に小麦 60,000 トンを供与	—	—	⑧ 25,035 ⑨ 126,000	(非 ODA)
米-8-2	Food Assistance -PL 480 Title III — 4年間に小麦 1,173,931 トン、食用油 24,995 トンを供与	—	—	⑧ 46,830 ⑨ 191,743	
米-9-1	PVO Co-financing I & II — 民間ボランティア組織の支援	—	1980-85	⑧ 773 ⑨ 5,500	

西ドイツ

(1) ODA(純支出額)及び贈与比率の実績

1981年 101.2百万ドル (94.7%)

1982年 82.7百万ドル (98.8%)

(2) ODA(純支出額)の推移

西ドイツの対バングラデシュ援助は、1972年、贈与で始まり、翌73年には借款供与が開始され、援助額を伸ばした、その後76年まで増加傾向にあった。

77年、78年にやや落ち込みがみられるが、これはそれまで援助の中心であった借款が76年の57.8百万ドルをピークに減少したためである。これを補う形で、贈与が79年には51.8百万ドルと対前年比2倍以上に達して、ODA総額は76年の水準に回復した。1980年以降のODAはほとんど贈与であり、ODA総額の増減はその変化を反映したものである。

(3) 形態別・分野別特徴

1970年代前半は借款主体であり、徐々に贈与比率が高くなり、1980年を境として以下の理由により、ODAのほとんどが贈与となった。

80年7月9日西ドイツは「途上国との協調に関する政策(Policy Paper on German Cooperation with Development Countries)」を発表した。これに基づいて、絶体的貧困の撲滅を第一の目的とし、重点援助対象国は、LLDCとなり、この援助政策に基づくLLDCに対する債務の贈与への切替え方針によって、80年バングラデシュの借款の返却分371.0百万ドルが無償の債務救済に振替られた。

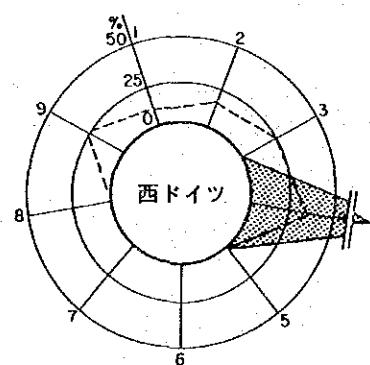
西ドイツの援助の対象は、援助政策に沿って、農村開発、エネルギー開発、天然資源保護、教育に重点を置いている。バングラデシュに対する援助の中心は食糧増産等農業開発および電力開発である。

UNDP資料に基づく、1981年進行中のプロジェクトは技術協力および無償のみで、双方合わせての分野別配分は件数ベースで鉱工業・エネルギー41.9%，農林・水産19.4%，公共・公益12.9%，その他12.9%等となっている。

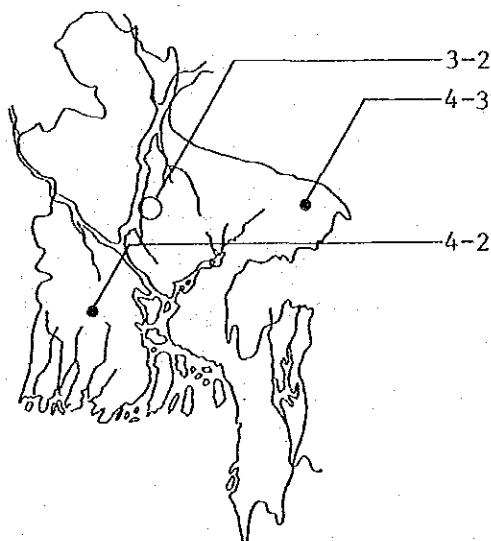
無償は、非プロジェクト援助にあてられ、主に商品援助、食糧援助である。

技術協力は、エネルギー、特に電力・電化、農業開発関連のプロジェクトが中心である。

・経済・技術協力プロジェクト
の分野別配分(1982)



・プロジェクト位置図



●主要経済技術協力プロジェクト

番号	プロジェクト名・概要	サイト	期間	供与期間 (千ドル)	備考
独-2-1	Railway Experts —客車リハビリ計画、鉄道車両の メインテイナンスにアドバイザ リー・グループ、機材供与およ び据え付け	—	1978-83	⑧ 1 ⑨ 7,070	
独-3-1	Strengthening of Protection Services for Quality Control of Pesticides, Rodent Control and Aerial Spraying —アドバイザー、機材、研修の供 与、ビル建設に援助等を通して 植物保護局を強化、侵食性のコ ントロール、殺虫剤の分析、ペ スト・コントロールなど	—	1978-83	⑧ N/A ⑨ 3,009	
独-3-2	Agriculture Program in Tangail District —かんがい施設の充実と他の地域 のインフラを含む農業プログラ ム	Tangail District	1982-84	⑧ 1 ⑨ 3,680	
独-4-1	Advisors to Petrobangla —石油・ガス掘削探査のための調 査	—	1976-83	⑧ N/A ⑨ 10,530	
独-4-2	BMR of Khulna Newsprint Mills —輸入パルプへの依存および生産 コストの低下を図るため 48,000トンの生産工場を建設	Khulna	1981-84	⑧ 20 ⑨ 22,660	カナダと共に
独-4-3	Sylhet Pulp and Paper Mills —パルプ・紙工場のリハビリ	Sylhet	1974-82	⑧ 8,100 ⑨ 40,680	
独-7-1	Population Program under Bilateral Agreement —ファミリープランニングの推進		1977-84	⑧ 1 ⑨ 19,690	
独-9-1	General Commodity Grants —緊急の輸入品目、原料、機械、 薬品及びサービス等の供与	—	1972-81	⑧ 1 ⑨ 75,670	無償供与

カナダ

(1) ODA（純支出額）及び贈与比率の実績

1981年 58.0 百万ドル (100.0 %)

1982年 88.2 百万ドル (100.0 %)

(2) ODA（純支出額）の推移

カナダの対バングラデシュODA額の推移は1972年から82年まで増減をくり返しながらも、全体として増加傾向にある。

カナダは、二国間援助の中でも最貧国向け援助に力を入れており、バングラデシュは、インド、タンザニア、スリランカ、エジプトなどと共に、カナダの主要援助対象国となっている。

(3) 形態別・分野別特徴

a 形態別特徴

対バングラデシュ援助は当初よりほとんどが贈与で、77年以降全て贈与のみとなった。

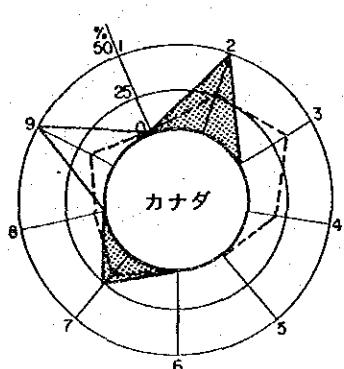
O E C D , Geographical Distribution によると、1981年の形態別配分は、無償資金協力97.8%，技術協力2.2%であり無償資金協力の占める割合が圧倒的に高い。

b 分野別特徴

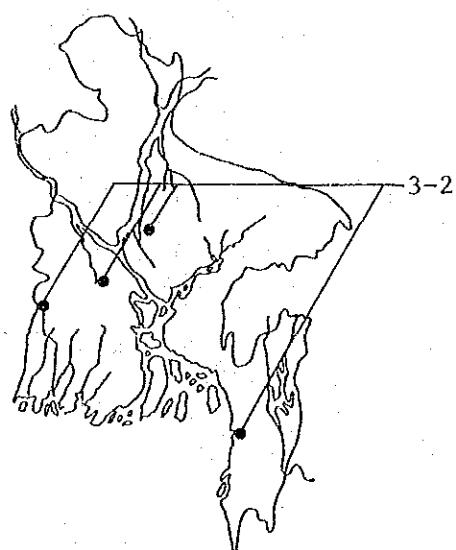
U N D P 資料に基づく、1981年進行中の技術協力および無償プロジェクトを合せた件数ベースの分野別配分では、農林・水産31.4%，公共・公益25.7%，保健医療17.1%等となっており、農業、運輸、保健部門が中心となっている。

金額ベースでみると、非プロジェクト援助（無償）の食糧援助および商品援助の占める割合が高い。

・経済・技術協力プロジェクト
の分野別配分（1982）



・プロジェクト位置図



●主要経済技術協力プロジェクト

番号	プロジェクト名・概要	サイト	期間	供与期間	(千ドル)	備考
加-2-1	Procurement of 77 Main Diesel Engine Locomotives (BG. 42 & MG. 35) — 起動力のディーゼル化	—	1978-90	⑧ ⑨	— 12,660	
加-2-2	Locomotives Spares & Equipment — 機関車のスペア・パーツおよびワーク・ショップの機材を供与	—	1976-84	⑧ ⑨	460 3,590	
加-2-3	Technical Assistance — ディーゼル電気機関車のメインティナスを改善するため、技術協力チームを7名派遣	—	1981-85	⑧ ⑨	370 4,750	
加-2-4	Construction of Appurtenant Structures — 69の管渠と40排水口、150の調整装置の建設及び調整装置の修理	北西部 南東部	1980-84	⑧ ⑨	46,500 10,000	無償供与 (Canadian Grant)
加-2-5	Re-engining — 7 GE ジーゼル車の Re-engining		1979-83	⑧ ⑨	1,170 3,670	
加-3-1	Fertilizer		1981-84	⑧ ⑨	— 41,400	無償
加-3-2	Construction of 20,000 tons Capacity Food Storage Units — 食糧貯蔵庫(貯蔵能力20,000t)を建設	Dhaka, Chittagong, Tangail, Jessore, Faridpur	1981-83	⑧ ⑨	490 4,920	
加-3-3	Wheac Program — 技術援助、研修調査機材を供与	—	1982-87	⑧ ⑨	— 4,000	
加-8-1	Food Aid — 小麦 17,000 トン	—	1981	⑧ ⑨	25,000	
加-9-1	Commodities — 工業原料(イオウ、パルプ、スズ、銅、アルミニウム)と肥料	—	1978-82	⑧ ⑨	19,800 49,700	無償
加-9-2	Commodities — 工業用原料(硫黄、木材パルプ、亜鉛、銅など)の供与、モニタリング、評価	—	1981-84	⑧ ⑨	— 25,000	

イギリス

●主要経済技術協力プロジェクト

番号	プロジェクト名・概要	サイト	期間	供与期間 (千ドル)	備考
英-3-2	U.K. Financed Rehabilitation Project ——既存の512の倉庫の修理及び重量計等の検査	—	1976-82	⑧ 4,400 ⑨ 6,100	
英-4-1	Ashugaji Gas Turbine Power Station ——発電所内の60MWのガスタービン及び30MWのスティームタービンの建設	Ashugaji	1981-84	⑧ 16,620 ⑨ 35,000	
英-4-2	Greater Dacca Power Distribution Project ——ダッカ市周辺の配電線とNo.898変電所の建設	Dacca	1974-81	⑧ 44,786 ⑨ 54,400	

オランダ

●主要経済技術協力プロジェクト

番号	プロジェクト名・概要	サイト	期間	供与期間 (千ドル)	備考
蘭-2-1	Putch Aided Small Projects (Early Implementation Project) ——運河の堤防及び堀の建設	広域	1977-84	⑧ 2,000 ⑨ 15,000	
蘭-2-2	Establishment of Design Center for IWT Mechanised Draft ——BIWTAにおける検閲部所のデザイン	—	1977-82	⑧ 3,920 ⑨ 4,650	
蘭-2-3	Land Reclamation and Estuary Control Project ——land accretion test, ベンガル湾の測量, ノアカリ地域の干拓及び土地のない人々の定住	Noakhali	1978-83	⑧ 600 ⑨ 6,000	
蘭-3-1	Construction of 12,000 tons Capacity Food Storage Units ——12,000トンの容量の倉庫の建設	—	1979-83	⑧ — ⑨ 15,550	
蘭-7-1	Medical Assistants Training Program (MATP) ——Medical Assistantsの研修とトレーニング・スクールの建設及び, 家族福祉センターの建設	—	1976-85	⑧ 2,000 ⑨ 10,000	
蘭-9-1	Dredger Spares ——Dredging の為のスペアーパーツの供給	—	1979-82	⑧ n/a ⑨ 17,500	

世銀グループ（IBRD, IDA）

(1) ODA（純支出額）及び贈与比率の実績

1981年 159.0百万ドル (0.0%)

1982年 187.1百万ドル (0.0%)

(2) ODA（純支出額）の推移

バングラデシュは72年8月に世銀に加盟している。その後世銀からの対バングラデシュ援助は、増加傾向にある。

81年にはODA額は159.0百万ドルとなっており、二国間援助で最高の日本の援助を上回る第一の援助供与機関となっている。世銀の対バングラデシュ援助の累計実績（独立～81年）は1,069.9百万ドルで、同期間のバングラデシュ向け多国間援助の45.4%を占め、また二国間・多国間援助の総計の13.4%を占めている。これはアメリカに次ぐ実績である。

援助開始から1983年6月末までのIBRD及びIDAによるバングラデシュ援助額（コミットメント・ベース）は88件、総額2,592.6百万ドルに達している。このうちIBRD貸付は1件、46.1百万ドルで、残り87件、2,546.5百万ドルは条件の緩いIDA融資となっている。

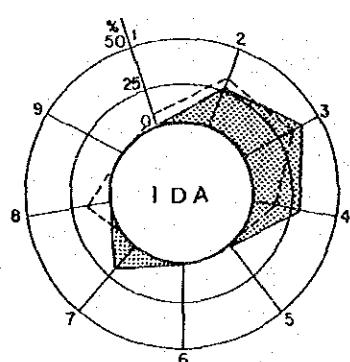
83年3月現在の実施状況を見ると、IBRD貸付1件とIDA融資25件のプロジェクトについては全て支出が完了している。全体での未実行率は50%弱となっている。支出の遅れの原因是、主としてローカル資金の不足である。その他の原因としては、契約承認、コンサルタントの起用、スタッフの選定等に時間がかかることがある。質のよいスタッフの不足、過度に中央に集中した官僚体制による手続きの遅れ、組織が非効率的であること等も深刻な問題となっている。またローカル・コストに関しては、バングラデシュの外貨事情及び国内資金事情に鑑み、世銀の融資は全ての外貨費用部分と内貨支出部分の一部をカバーするようになっている。

(3) 形態別・分野別特徴

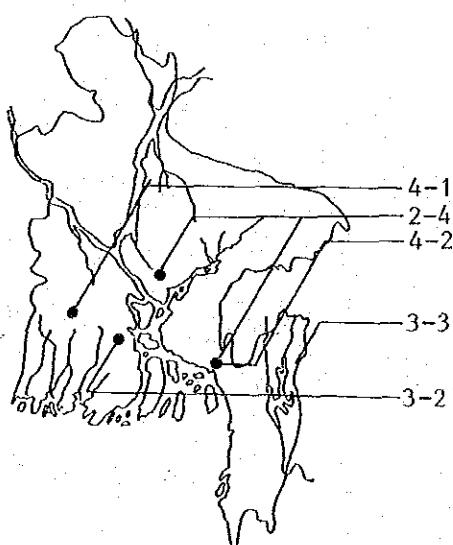
1983年6月末までの累計の分野別内訳を見ると、圧倒的に案件数が多いのが農業部門である（29件）。農業部門の開発はバングラデシュが最も重視している分野である。次に多い案件は商品輸入援助で、バングラデシュが開発を進めていく上で必要な基礎資材を供与している。金額では商品援助が最大である。技術援助の金額は少ないが、教育・訓練関係の援助が中心となっている。

以上のプロジェクト援助の他、IBRD、IDAに次ぐ援助窓口のIFCからのバングラデシュ民間企業に対する投融資も行われている。バングラデシュは76年6月にIFCに加盟している。

・経済・技術協力プロジェクト
の分野別配分（1982）



・プロジェクト位置図



IDA

●主要経済技術協力プロジェクト

番号	プロジェクト名・概要	サイト	期間	供与期間 (千ドル)	備考
I-2-1	Small Scale Drainage and Flood Control — かんがい、排水、洪水のための水位調整器、水門を設置	Zone - Khulna, Barisal, Faridpur, Circle, Zone - Comilla, Chittagong Circle, Mymensingh, Sylhet, Dacca	1979-84	⑧ 1,000 ⑨ 25,000	有償
I-2-2	Low Lift Pump Project — ポンプ 8,500 基の設置。民間のワークショップ 50 店を設立。水利用調査。メカニクスの研修など	Thana	1980-84	⑧ 14,700 ⑨ 37,000	有償
I-2-3	Drainage and Flood Control — 3 地域の洪水コントロール、排水設備を供与	Faridpur, Barisal, Sylhet, Rajshahi	1982-87	⑧ N/A ⑨ 27,000	有償
I-2-4	Dacca-Chittagong Highway (Feni By-Pass) — 20 マイルに及ぶ道路の建設、シタラクヤ橋の建設、戦禍を受けたスルマ橋の修復、ハイウェー省本部ビルの建設など	Dacca, Chittagong, Sitalakya	1973-82	⑧ 22,900 ⑨ 25,000	
I-2-5	Area Coverage Rural Electrification Phase - II — 農村 8 地域 2,835 平方マイルの電化。3,675 マイルの配電線建設	—	1982-85	⑧ — ⑨ 40,000	
I-3-1	Extension and Research II — 政府の食糧自助達成(中期食糧生産計画)を支援。米・小麦の生産量を 81 年の 15 トンから 85 年に 18-20 トンまで増加	—	1982-87	⑧ N/A ⑨ 27,000	有償
I-3-2	Barisal Irrigation Project (Phase I & II) — 140,000 エーカーのポンプかんがいプロジェクト。設備、機材、研修などを援助	Barisal	1975-85	⑧ 12,000 ⑨ 27,000	有償
I-3-3	Karnafuli Irrigation Project — かんがい、洪水コントロール、排水、水産開発計画に融資	Karnafuli	1976-83	⑧ 13,400 ⑨ 22,000	有償
I-3-4	Meghna-Dhonogoda Irrigation Project — ①インフラ整備 - 65 km に及ぶ堤防、ポンプ・ステーションを 3カ所、75 km に及ぶかんがい運河、送電線、サブ・ステーションなどの建設、②農業開発、③コンサルタント・サービス	—	1977-84	⑧ 2,856 ⑨ 24,000	

番号	プロジェクト名・概要	サイト	期間	供与期間 (千ドル)	備考
I-3-5	Second Fertilizer Import — 肥料および肥料原料輸入に財政援助。肥料価格制度の確立	—	1980-82	⑧ 23,300 ⑨ 25,000	有償
I-3-6	Fertilizer Transport Project — 倉庫の建設	Rajshahi Natore, Baghabari, Shiromoni	1981-84	⑧ 1,780 ⑨ 25,000	有償
I-4-1	Greater Khulna Power Distribution Project — 都市の電力配給網の開発・改善	Khulna, Bagerhat, Mangla, Sakhira	1980-84	⑧ 252 ⑨ 36,500	OPECと共に
I-4-2	Fertilizer Industries Rehabilitation Project — 現存の肥料プラント、尿素プラント2基の稼働力を改善	Ghorasal, Fenchuganj, Chittagong	1980-83	⑧ — ⑨ 33,240	オランダと共に 出資
I-4-3	Ashuganj Fertilizer (Zia Fertilizer Project) — 肥料プラントのエンジニアリング、建設および1,100 T/Dの稼働。マネジメント、プロジェクト実施、運用の研修。1,600 T/Dの尿素プラントの建設	Ashuganj	1975-83	⑧ 84,943 ⑨ 262,980	AsDB/USAID /KFW/EEC などとの共同プロジェクト
I-4-4	Textile Industries Rehabilitation Project (BMR of Textile Mills First Phase) — 繊維分野のあらゆる状態を改善。繊維工場マネジメント制度およびリハビリの政策改善・強化	—	1982-84	⑧ — ⑨ 30,000	有償
I-6-1	Fourth Education (Primary) Project — 小学校4,033校に体育施設および教材の供与。教科書・制服の無料供給。教師等の海外研修など	—	1981-86	⑧ 1,136 ⑨ 40,000	⑩
I-6-2	Vocational Training Project — 国立技能開発・研修協議会の本部ビルおよび技術研修センター(5カ所)の建設、設備の供与	—	1979-85	⑧ 3,870 ⑨ 25,000	有償 ⑪ ⑫
I-7-1	Construction of Union Family Welfare Centres throughout Rural Bangladesh — ユニオン家族福祉センターを、2,350カ所に建設、同設備供与	—	1978-85	⑧ — ⑨ 51,160	ノルウェー/オーストラリアと 共同融資 有償

UNDP

●主要経済技術協力プロジェクト

番号	プロジェクト名・概要	サイド	期間	供与期間 (千ドル)	備考
U-2-1	Expansion of TTC, Dacca — インフラ完備に従事する中級技術者の研修センターの拡充	Dacca	1977-82	⑧ 400 ㉚ 2,900	
U-2-2	Development of Broadcasting Services (UNESCO) — 国立放送局のシステム企画を作成、研修センターの設立および研修計画に援助	—	1978-82	⑧ 900 ㉚ 3,000	
U-2-3	Ground Water Survey — 地下水源の評価。掘削、テスト、野外調査などによりデータを収集。リポート、地図の作成	—	1977-82	⑧ 600 ㉚ 2,300	
U-2-4	Civil Aviation Department (ICAO) — 民間航空局の航空エンジニアリング部門（航空情報サービスおよび飛行安全）に援助	—	1981-84	⑧ 300 ㉚ 1,800	
U-4-1	Textile Industry Development Programme Project — 繊維産業の指導者の研修	—	1979-84	⑧ 935 ㉚ 3,490	
U-4-2	Pilot Plastics Processing, Testing, Training and Information Centre (Plastics Technology Centre) — プラスチック技術センターの能力を拡充	—	1978-82	⑧ 200 ㉚ 800 ㊇ 40 M/M ㊇ 800 ㊇ 40 M/M	
U-4-3	Assistance to Chittagong Export Processing Zone — チッタゴン輸出プロセシング地帯の組織化・運用に援助	Chittagong	1981-82	⑧ 90 ㉚ 400 ㊇ 90 ㊇ 400 ㊇ 90	
U-4-4	Management Development (ILO) — 国家マネジメント計画実施に援助。産業面におけるマネジメント力を向上させ、マネジメント開発センターを強化		1975	⑧ 400 ㉚ 2,320 ㊇ 400 ㊇ 2,320 ㊇ 400	
U-6-1	Strengthening of Statistical Services (Phase II) — バングラデシュ統計局の総人口調査、農業就業人口調査に援助	Dacca	1977-85	⑧ 1,200 ㉚ 8,000 ㊇ 1,200 ㊇ 8,000 ㊇ 1,200 ㊇ 8,000 ㊇ 308 M/M	
U-6-2	Development of Vocational Training (ILO) — マンパワー・雇用・研修局の研修拡充、技術研修センター（5カ所）の改善に援助	Mirpur, Chittagong, Rajshahi, Faridpur, Rangamati	1981-85	⑧ 178 ㉚ 2,267	

そ の 他

●主要経済技術協力プロジェクト

番 号	プロジェクト名・概要	サ イ ト	期 間	供与期間 (千ドル)	備 考
そ-2-1	Bangladesh Biman — 中間管理者養成とオーストラリアでの研修		1979-84	⑧ 1,530 ⑨ 3,500	オーストラリア
そ-2-2	Procurements of 386 Passenger Carriages (BG-117 & MG-269) — 客車の調達と5年間に必要とされるスペア(予備部品)の供給		1978-83	⑧ TK101,260 ⑨ 8,290	有償 デンマーク
そ-2-3	One Cargo Vessel — 13,500 DWT の容量をもつ荷搬の供与		1980-82	⑧ N/A ⑨ 18,000	フランス
そ-2-4	Pabna Irrigation and Rural Development Project -Phase II — 堤防および排水設備網の供与、456,950エーカーをカバーする地域に排水ポンプを設置。71,630エーカーにかんがい排水システムを供与	—	1979-86	⑧ 5,800 ⑨ 38,000	AsDB 有償
そ-2-5	Tubewell Development Project Dinajpur — 挖抜き深井戸の据付け・リハビリ。水配給網および改善化された水マネジメント設備の建設	Dinajpur	1980-87	⑧ — ⑨ 50,000	AsDB 有償
そ-2-6	Main Line Diesel Engine Locomotives (BG-12 & MG-18) — ディーゼル機関車の購入	—	1976-82	⑧ 22,490 ⑨ 23,850	サウジアラビア
そ-2-7	Procurement of 1255 Wagons (BG-608 & MG-647) — 貨車の購入	—	1977-82	⑧ 54,690(有) " 710(無)(有償) ⑨ 60,020(有) " 57,400(無)	サウジアラビア (有償) イギリス(無償)
そ-2-8	Shunting Diesel Engine Locomotives — ディーゼル機関車の購入	—	1977-82	⑧ 10,150 ⑨ 24,300	ハンガリー (有償)
そ-2-9	Rehabilitation of Track under the Assistance of ADB Bridge, Improvement of Signaling, Telecommunication and Rehabilitation of Steam Locomotives and Wagons — ダッカ=チッタゴン間のトラック、橋のリハビリ。信号現示・通信システムの改善、50 MG 蒸気機関車・7,000 MG 貨車のリハビリ	Dacca-Chittagong	1975-82	⑧ 19,809 ⑨ 23,000	AsDB

番号	プロジェクト名・概要	サイト	期間	供与期間 (千ドル)	備考
そー2-10	Area Coverage Rural Electrification Phase - I Extension — 農村 8 地域 3,072 平方マイルの電化	—	1981-85	⑧ 29,300	KFAED (クウェイト)
そー3-1	Rehabilitation of Chittagong Fisheries Habour — ベンガル湾の Chittagong 渔港設備の整備と調整	—	1981-82	⑧ 11,310	デンマーク
そー3-2	Introduction for Motorized Boats in Bay of Bengal — 鉄底ジーゼルエンジン付きボートの保管及び木製のボードの製作と漁民への供与	—	1981-84	⑧ N/A ⑨ 13,550	スウェーデン
そー3-3	Expanded Rubber Plantation and Processing Project — 12,598 エーカーの既存ゴム園の整備と拡張 (25,068 エーカーへ), 住居区の整備及び技術トレーニング	—	1980-87	⑧ 4,880 ⑨ 20,000	As D B
そー3-4	EEC Financed Storage Construction Project — 食糧確保, プログラムに従い, 50,000 トンの緊急用食料倉庫の建設	—	1981-83	⑧ N/A ⑨ 11,200	EEC
そー3-5	Establishment of Shrimp Aquaculture Demonstration Farm — エビ, 魚の生産量の増大を図るため, 養殖の方式をデモンストレーション	Satkhira, Khulna	1982-84	⑧ N/A ⑨ 33,350	FAO
そー3-6	100.Thanas Intensive Rural Works Program Investment Project — 洪水を被りやすい農村のインフラを改善し, 農業生産の増加を図る。土地のない労働者等に雇用, 収入の機会を増加	Thanas	1981-90	⑧ 6,200 ⑨ 268,630	スウェーデン / デンマーク / ノルウェー
そー3-7	South-West Rural Development Project — 多分野にわたる農村開発プロジェクトのための政府委員会を設置。土地のない労働者に雇用の機会をつくる	—	1979-84	⑧ N/A ⑨ 25,000	IFAD
そー3-8	Bangladesh Tea Rehabilitation Project — 茶の生産量の増産を図り, 茶の質を改善	—	1978-95	⑧ 1,000 ⑨ 52,000	イギリス

番号	プロジェクト名・概要	サイト	期間	供与期間 (千ドル)	備考
そー4ー1	Barisal P / Station — 25 MWの発電所をバリサルに建設する計画	Balisal	不明	⑧ 1,052 ⑨ 12,060	N/A フランス
そー4ー2	Bakhrabed Gas Development Project — バクハラブドにおけるガス採取の為の開発と輸送ラインの建設	—	1981	⑧ 1,052 ⑨ 127,400	有償 IDA OPEC OECD
そー4ー3	Swiss - Bangladesh Project for Sericulture — 養蚕業の調査と拡張	—	1978-81	⑧ 1,052 ⑨ 10,000	N/A スイス
そー4ー4	Greater Chittagong Power Distribution Project — チッタゴン市周辺にNo. 286 変電所及び送電線等の建設	—	1978-83	⑧ 1,695 ⑨ 27,750	AsDB
そー4ー5	110 MW Khulna Power Station — 110 MWの火力発電所1基を建設	Khulna	1974-82	⑧ 20,102 ⑨ 20,102	チェコスロバキア
そー4ー6	East Zone Emergency Power System Replacement Programme — 130 KV 線およびサブ・ステーションの損害を受けた箇所の修理、メインティナンス、取り換え	East Zone	1979-85	⑧ 5,093 ⑨ 20,703	スウェーデン/ 西ドイツ/ サウジアラビア/ AsDB
そー4ー7	East - West Electric Inter-Connector Project — 230 KV の送電線を 94.43 マイル (トンギ=イシュルデ間) に設置	Tongi - Ishurdi, Jamuna	1978-82	⑧ 41,730 ⑨ 68,700	クウェイト/ アラブ首長国連邦/ OPEC/ IDB
そー4ー8	Greater Chittagong Power Distribution Project — 132 KV の送電線を 33 マイル、33 KV を 19 マイルなどを設置	Chittagong	1978-83	⑧ 1,695 ⑨ 27,750	AsDB
そー4ー9	Chittagong Area Fertilizer Project — 食糧ストックおよび燃料としての天然ガスに重点をおいたプロジェクト。設置場所の準備・確保。アンモニア・ユニット (1,000 T / D 能力) の企画、エンジニアリング、運用。尿素肥料工場 (1,700 T / D) の建設など	—	1981-85	⑧ 338 ⑨ 233,380	AsDB / ADFA ED / CIDA / SBD / OECD / SFD / IDA 有償

番号	プロジェクト名・概要	サイト	期間	供与期間	(千ドル)	備考
そ-4-10	Polash Area Fertilizer Project — 肥料工場の企画、建築資機材・機械部品の調達	—	1978-85	⑧	—	中国 ⑨ 38,674 ⑩
そ-4-11	Jaipurhat Limestone Mining — ポートランド・セメント製造のためライムストーンの開発を推進	Jaipurhat	1980-85	⑧	—	サウジアラビア ⑨ 30,000
そ-4-12	210 MW Ghorasal Power Station (2nd Unit) — 210 MWの火力発電所1基の建設、132 KVのサブ・ステーションの拡充	Ghorasal	1980-85	⑧	N/A	ソ連 ⑨ 74,000
そ-6-1	Universal Primary Education (Non-Aided) — 1985年までに小学校入学に達した児童の90%を入学させる計画に基づく、教室、教科書、制服等の配給	—	1981-85	⑧	10,000 ⑨ 18,000	UNICEF
そ-6-2	Universal Primary Education — 学齢に達した子供の小学校への入学率を85年まで90%に上げるプロジェクト。教室を10,000新設。既存10,471学校ビルの改修。生徒の50%に教科書無料配布	—	1981-85	⑧	10,000 ⑨ 18,000	UNICEF
そ-7-1	Family Planning Scheme — 出生率の年間0.2%の引下げ計画に援助。家族計画、適用人口を240万人から730万人に拡大	—	1980-85	⑧	N/A ⑨ 77,773	IDA/KFW/ SIDA/UNFPA /US AID 有償
そ-7-2	Second Population and Family Health Project — 保健衛生、母子衛生・家族計画サービスを供与、保健・家族計画実施者の研修など	—	1979-83	⑧	644 ⑨ 89,638	オーストリア/ CIDA/KFW/ IDA/NORAD /ODA/SIDA 有償
そ-8-1	NA Feeding Rehabilitation of Vulnerable Groups — 栄養状態に問題のある母子に食糧援助	—	1982-85	⑧	— ⑨ 54,000	WFP
そ-9-1	Commodity Assistance — ノルウェー国内の肥料、工業原料及び薬品の供与	—	1981-82	⑧	— ⑨ 6,050	ノルウェー

4 我が国の経済・技術協力実施状況

4-1 我が国の対バングラデシュ援助の特徴

4-1-1 日・バングラデッシュ関係概況

わが国は1972年2月10日、バングラデシュを承認した。以来、両国関係は経済・技術協力関係を中心に友好裡に推移しており、バングラデシュの対日期感も大きい。

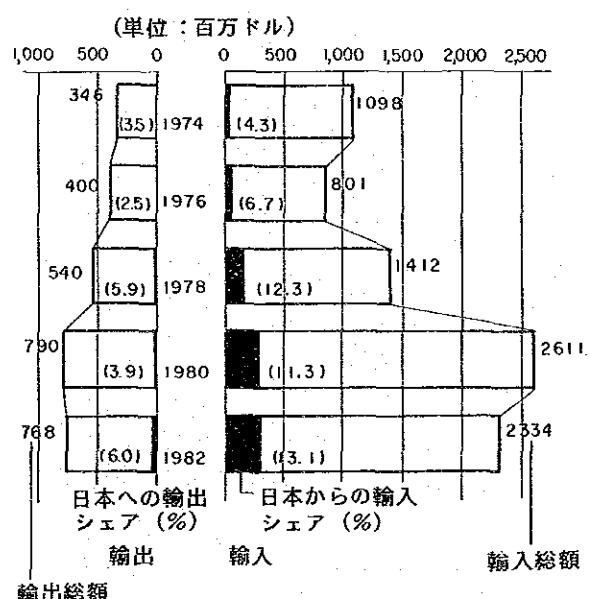
4-1-2 貿易関係

図4-1はバングラデシュの貿易額と対日貿易額の占める割合を、経年推移で示したものである。バングラデシュの貿易額は年々増加し、対日貿易額も増加の傾向にある。すなわち、バングラデシュの輸出総額に占める日本向け割合は1974年の3%台から1982年には6%に増加しており、輸出総額に占める日本からの割合は、1974年の4%台から1982年には13%台に増加している。

日本・バングラデシュ間貿易は、バングラデシュ独立後の1972年以降、毎年日本側の大幅な出超を記録している。

両国の貿易構造は、わが国がバングラデシュから冷凍エビ、ジュート関連品、揮発油等を輸入し、わが国からは機械機器、金属品、繊維品、食料品等を輸出しているという形である。バングラデシュからの輸入品として拡大が目ざましいのは冷凍エビのみで、一方、日本の輸出品はバングラデシュの経済開発・工業化に必要とされる重化学工業品である。このためわが国の輸入が今後急激に伸びたり、わが国の輸出が急速に縮少したりすることは考えられず、バングラデシュ側の貿易赤字幅の縮少は困難な状況となっている。

図4-1 我が国とバングラデシュの貿易額の推移



出典：通商白書

4-1-3. 経済・技術協力関係

図4-2にみられるように、バングラデシュにおけるわが国からのODAの割合は、1974年以来急増しており、1974年の4%から1982年には16%となっている。

同様に、わが国の二国間ODA総額に占める対バングラデシュ援助の割合は、図4-3に示す通り、近年急増の傾向にある。

これはバングラデシュはわが国にとって、インドネシア、タイとともに援助の重点対象国となっているためである。わが国の対南西アジア地域向け援助の中では、バングラデシュ向け援助が約半分を占めており、バングラデシュはわが国の南西アジア第一の重点援助対象国となっている。

ODAの形態別配分を図4-4に示す。借款が80%前後であり、この比率は一定している。

わが国以外のバングラデシュ向け援助の主要供与国の中では、西ドイツ、カナダ、イギリス、オランダ等が同国向け援助の過去の借款を贈与に切換え、また新規援助についてはほとんど全額を贈与ベースとしていることと比べ、わが国のバングラデシュ向け援助に占める借款の比率は高い。

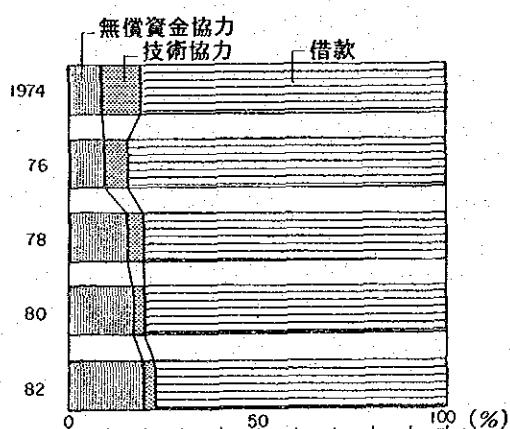
図4-2 バングラデシュにおける我が国ODAのシェア

年	我が国の援助額(シェア)		総ODA額 百万ドル
	援助額 (百万ドル)	シェア(%)	
1974	21.3	(4.1%)	521.8
76	31.5	(5.9)	532.2
78	119.6	(12.1)	989.6
80	215.1	(17.0)	1262.4
82	215.8	(16.1)	1343.8

図4-3 我が国の二国間ODA総額に占めるバングラデシュのシェア

年	我が国の二国間ODA総額 百万ドル	
	ODA額 (%)	ODA額 (百万ドル)
1974	(2.4%)	880.4
76	(4.2)	753.0
78	(7.8)	1531.0
80	(11.0)	1960.8
82	(9.1)	2367.3

図4-4 我が国対バングラデシュODAにおける形態別配分の推移



出典: Geographical Distribution of Financial Flows to Developing Countries OECD/1978,82,84

表4-1 我が国のバングラデシュに対する経済技術協力実績

	～昭和57年度 (累計)	昭和58年度	昭和59年度 (3月末実績)
I 政府開発援助 ^(a) (ODA)			
・技術協力 (JICAベース)			
一 経費	7,956百万円	972百万円	996百万円(計画)
一 研修受入	849人	74人	104人
一 専門家派遣	218人	27人	一人
一 単独機材供与	209百万円	14百万円	一百万円(計画)
一 青年海外協力隊	一人	25人	76人 (うち継続57人)
一 開発調査	25件	4件	5件 (うち継続3件)
一 海外開発計画調査 プロジェクト方式技術協力	7件 2件	一件 一件	一件 3件 (うち継続2件)
・無償資金協力	68,332百万円	11,929百万円 (9件)	2,456百万円 (4件)
・有償資金協力	227,953百万円	27,500百万円 (2件)	6,065百万円 (1件)
II 対外直接投資 ^(b) (非ODA)	百万ドル (件)	百万ドル (件)	

(出典) (a): JICA, ファクトシート

(b): 大蔵省, 昭和58年度における対外直接投資届出実績

(昭和59年6月8日)

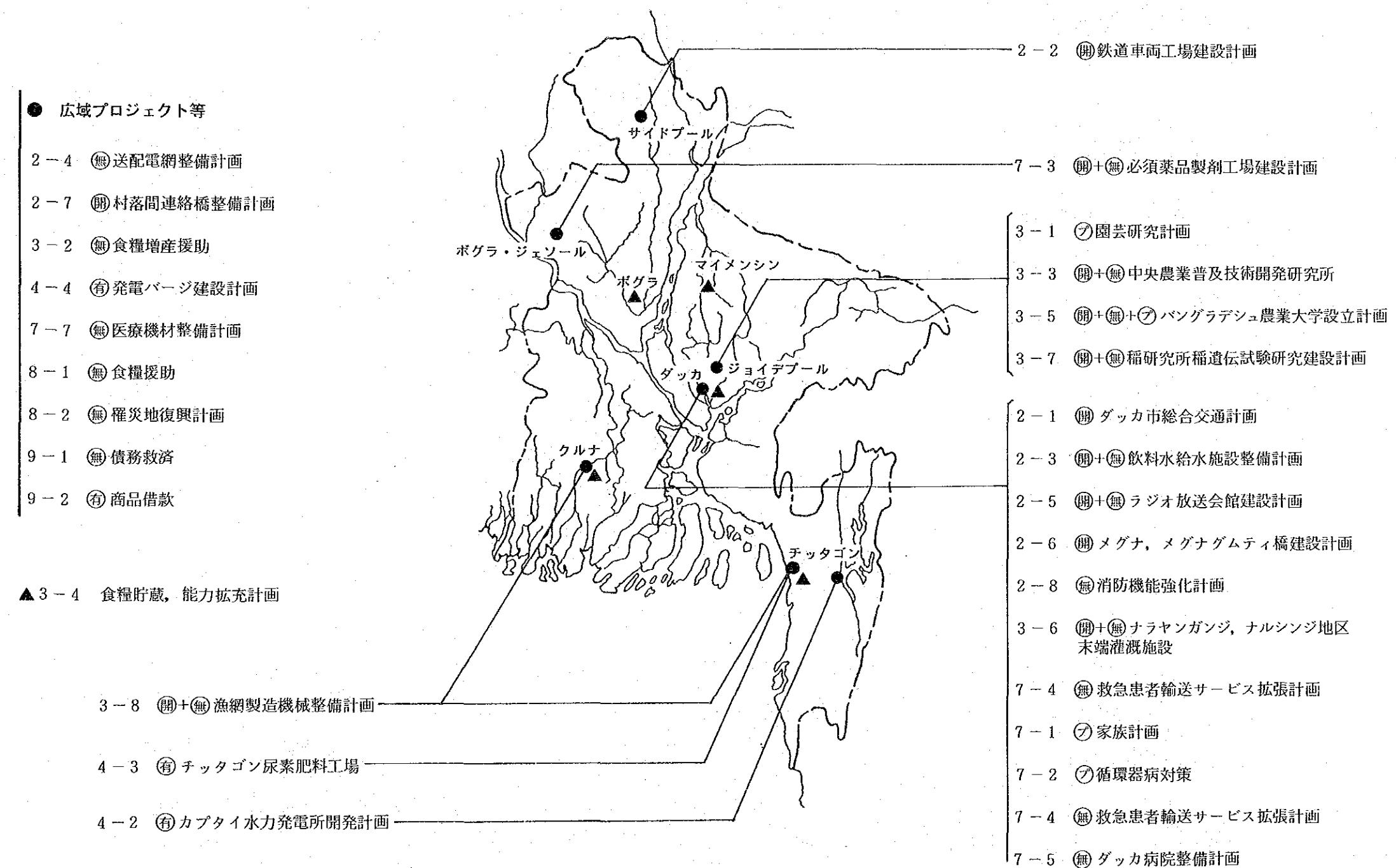
(注) 無償資金協力、有償資金協力は交換公文ベース、対外直接投資は届出ベースである。

図4-5 我が国の経済技術協力プロジェクト位置図

凡例 ① 開発調査

- ② プロジェクト方式技術協力
- ③ 無償資金協力
- ④ 有償資金協力

注) 各プロジェクトの番号は後述のプロジェクトリストに對応している。



4-2 分野別経済・技術協力実施状況（表4-2）

凡　例 1) □で案件の実施年度を示し方式を記入した。期間が長期に亘り昭和54～59年度を越える場合□又は□で案件の継続を示す。

2) 実績欄に示す金額は、各年度毎の実績額とし最後に金額の集計値を示した。54年度以前の金額については、()内に単年度又は累計の金額として示した。

開 調	開発調査
海 開	海外開発計画調査
資 開	資源開発基礎調査
無 償	無償資金協力
(一 般)	一般無償援助
(水 産)	水産関係援助
(文 化)	文化関係援助
(災 害)	災害関係援助
(食 糧)	食糧援助
(食 増)	食糧増産援助

プロ技協　プロジェクト方式技術協力
 →で機材供与を示し53～58年度を越え
 継続する場合←→で示した。又、
 各年度の派遣専門家の人数を()内に入
 れた。

有 償　有償資金協力（政府直接借款）
 E/N　交換公文

1. 計画・行政

2. 公共・公益事業

プロ ジ ェ ク ト 名	サ イ ト	年 度						実績合計(百万円)
		~54	55	56	57	58	59	
2-1 ダッカ市総合交通計画	ダッカ				開調			3.0
2-2 鉄道車両工場建設計画	サイドプール				開調	開調		80.9
2-3 飲料水給水施設整備計画	ダッカの北 東35kmマ グナ川の右岸				開調	無償		790.9
2-4 送配電網整備計画	広 域				(一般)	無償		300
						300		E/N 58.8.30

プロ ジ ェ ク ツ 名		サ イ ト	年 度						実績合計(百万円)
			~54	55	56	57	58	59	
2-5	ラジオ放送会館建設計画	ダッカ	53 [開調]	[開調] 17.0 (一般)					19.5 2,180 2,199.5
2-6	メグナ・メグナグムティ橋建設 計画	ダッカ市南 東約 25km 及 び約 40km の 2 地 点					[開調] 23.2	[開調] 171.8	195.0
2-7	村落間連絡橋整備計画 (基本設計)	全 国						[開調] 9.6	9.6
2-8	消防機能強化計画	ダッカ						[無償] 200 E/N 559.4.5	200

3. 農林・水産

3-1	園芸研究計画	ジョイデ プール	52 プロ技協					278.0 (53)		
			巡指	エバ	計打	巡指	エバ			
			51 機材供与							
			141.3	56.1	66.1	8.8	5.7			
			専門家							
			(14)	(10)	(11)	(9)	(9)			
3-2	食糧増産援助			(食増)	[無償]	[無償] 2,900		6,100		
					E/N	E/N 57.2.9				
3-3	中央農業普及技術開発研究所	ジョイデ プール	49~50 [開調] ※					※ 50年 26,425		

プロジエクト名	サイト	年 度						実績合計(百万円)
		~54	55	56	57	58	59	
3-3 (続き)		51 (一般) [無償] 700 E/N 51.5.11						
		52 (一般) [無償] 180 E/N 52.6.4			(一般) [無償] 120 E/N 57.6.25			1,000
		48 プロ技協						
		巡指	巡指	巡指	巡指	エバ		
		47 機材供与						
		497.0	77.9	30.2	22.3	3.9		631.3
		51 専門家						
		(45)	(20)	(17)	(12)	(9)		(103)
3-4	食糧貯蔵・能力拡充計画	ダッカ マイメンシン チックゴン ボグラ クルナ	53 [開調] 30.8			[開調] 7.7 (一般) [無償] 1,800 E/N 57.8.2		
								38.5
								1,800
								1,838.5
3-5	バングラデシュ農業大学設立計画	ジョイデ ブル	[開調] 2.4	[開調] 33.3 (一般) [無償] 2,000 E/N 56.6.22				35.6
								2,000
								2,035.6
							プロ技協 0 (0)	
3-6	ナラヤンガンジ・ナルシンジ地区 末端灌漑施設	ダッカ郊外		[開調] 22.9 (一般) [無償] 840 E/N 56.10.20				22.9
								840
								862.9

プロジェクト名	サイト	年 度						実績合計(百万円)
		~54	55	56	57	58	59	
3-7 稲研究所稲遺伝試験研究建設計画	ジョイデ プール				[開調] 8.1 (一般)	[開調] 10.7 [無償]		18.8 550 E/N 58.11.11 568.8
3-8 漁網製造機械整備計画	チッタゴン クルナ				[開調] 10.2 (水産)			10.2 210 E/N 58.10.10 220.2

4. 鉱工業・エネルギー

4-1	バ克拉バードガス開発	東部 バクラード地区		I		II		8,600
				[有償] 6,600		[有償] 2,000		
				E/N 55.12.15		E/N 57.9.20		
4-2	カブタイ水力発電開発計画	カルナフリ 河 上 流	海	開				26.7
			10.2	16.5	I	II	III	
					[有償] 250	[有償] 4,000	[有償] 10,680	
4-3	チッタゴン尿素肥料工場	チッタゴン		1	II			13,250
				[有償] 9,750	[有償] 3,500			
				E/N 56.7.20	E/N 57.9.20	E/N 58.11.11		
4-4	発電バージ建設計画						[有償] 6,065	6,065
							E/N 59.8.14	

5. 商業・観光

6. 人 的 資 源

プロ ジ ェ ク ツ 名	サ イ ト	年 度						実績合計(百万円)
		~54	55	56	57	58	59	

7. 保 健 医 療

7-1	家族計画 (ダッカ郊外)	デムラ地区	51.3 プ ロ タ ジ オ 協						401.7
			エバ						
			51 機 材 供 与						
			262.7	83.0	53.6	2.4			
			51 専 門 家						
			(13)	(2)	(2)	(2)	(2)		(21)
						その他			
						3.6			
7-2	循環器病対策		54.2 プ ロ タ ジ オ 協						55.4
			計打			巡指 機修	エバ 機修		
			機 材 供 与						
			9.0	0	0	21.8	24.6		
			53 專 門 家						
			(3)	(1)	(21)	(24)	(24)		(73)
7-3	必須薬品製剤工場建設計画	ボグラ、 ジェソール				開調	開調	無償	25.6
						5.3	20.3	無償	
								1,150	1,150
								E/N 59.1.19	1,175.6
7-4	救急患者輸送サービス拡張計画	ダッカ			(一般)	無償			250
						250			
							E/N 57.6.25		
7-5	ダッカ病院整備計画	ダッカ			(一般)	無償			338
						290			
							E/N 56.3.4		
7-6	ナラヤンガンジ総合病院建設計画	ナラヤン ガンジ				開調			46.6
						46.6			
						(一般)	無償	無償	
						590	1,680		
							E/N	E/N	
						58.10.24	59.5.28		
									2,316.6

プロ ジ ェ ク ツ 名	サ イ ト	年 度						実績合計(百万円)
		~54	55	56	57	58	59	
7-7 医療機材整備計画（基本設計）	全 国						無償 832	832 E/N 60.2.16

8. 社会福祉

8-1 食糧援助		(食糧)	無償	無償	無償	無償	10,248

8-2 災害地復興計画

9. そ の 他

9-1 債務救済		(一般)	無償	無償			2,595

9-2 商品借款

図表リスト

- 図1-1 バングラデシュの概要図／2
- 図2-1 援助主体別ODA推移／7
- 図2-2 援助形態別ODA推移／7
- 図2-3 主要援助国・国際機関別ODA推移／7
- 図2-4 主要援助国・国際機関による対バングラデシュ政府開発援助(ODA)の実績／8
- 図3-1 援助形態別主要援助国・国際機関の推移／10
- 図3-2 援助分野にみる主要援助国・国際機関の特徴／11
- 図3-3 主要経済技術協力プロジェクト位置図／13
- 図4-1 我が国とバングラデシュの貿易額推移／32
- 図4-2 バングラデシュにおける我が国ODAシェア／33
- 図4-3 我が国の二国間ODA総額に占めるバングラデシュのシェア／33
- 図4-4 我が国の対バングラデシュODAにおける形態別配分の推移／33
- 図4-5 我が国の経済技術協力プロジェクト位置図／35

表1-1 国内総生産の変化／3

表1-2 国内総生産／4

表1-3 国際収支／5

表1-4 政府財政／5

表2-1 1981年対バングラデシュ政府開発援助(ODA)実績総括表／9

表2-2 1982年対バングラデシュ政府開発援助(ODA)実績総括表／9

表4-1 我が国のバングラデシュに対する経済技術協力実績／34

表4-2 分野別経済技術協力実施状況／36

参考資料

1. Geographical Distribution of Financial Flows to Developing Countries (1971～1982); OECD (1978, 1981, 1982, 1984)
2. Bangladesh Development Assistance Report (1981); World Bank Resident Mission & UNDP (November, 1982)
3. The Second Five Year Plan 1980～85; Planning Commission, Bangladesh (1980)
4. Aid and Influence, The case of Bangladesh; Faaland (1981)
5. FLOW OF EXTERNAL RESOURCES INTO BANGLADESH; EXTERNAL RESOURCES DIVISION MINISTRY OF FINANCE (JUNE, 1979)
6. ANNUAL DEVELOPMENT PROGRAMME 1984～85; PLANNING COMMISSION(JUNE,1984)
7. STATISTICAL POCKET BOOK OF BANGLAESH 1983; BANGLADESH BUREAU OF STATISTICS (JULY, 1984)
8. STATISTICAL YEARBOOK OF BANGLADESH 1982; BANGLADESH BUREAU OF STATISTICS (December, 1983)
9. WORLD BANK ATLAS 1984; WORLD BANK
10. WORLD TABLES 1983; WORLD BANK
11. INTERNATIONAL FINANCIAL STATISTICS, October 1984; IMF
12. DIRECTION OF TRADE STATISTICS YEARBOOK 1984; IMF
13. わが外交の近況(外交青書) 59; 外務省編(昭和 59 年)
14. 國際協力事業団年報 1976～1983; 國際協力事業団(1977～1984)
15. 無償資金協力実績要覧; 國際協力推進協会(昭和 59 年 2 月)
16. 世界年鑑'84; 共同通信社(1984)
17. 海外経済協力便覧 1984; 海外経済協力基金編, 國際開発ジャーナル社(昭和 59 年)
18. 基金調査季報, 第 38～46 号; 海外経済協力基金調査開発部
19. 無償資金協力実績(JICA 担当金)(昭和 52 年～56 年度); 國際協力事業団(59 年 2 月)
20. 國際協力事業団事業実績表; 國際協力事業団総務部情報管理課(昭和 59 年 3 月末現在)
21. 経済協力ハンドブック 1985; アジア経済研究所(1985)
22. 國際協力ハンドブック 1983; 國際協力推進協会
23. 経済協力の現状と問題点 1983, 1984; 通産省(1984, 1985)
24. 世界開発報告 1981, 1984; 世界銀行(1981, 1984)
25. 世界各国便覧叢書〔アジア編〕スリランカ民主社会主義共和国, バングラデシュ人民共和国, モルジフ共和国, 在スリランカ及びバングラデシュ日本国大使館編, 日本国際問題研究所(昭和 58 年 12 月)
26. アジア諸国要覧, 外務省アジア局(昭和 58 年 10 月)
27. アジアでのくらし～バングラデシュ; 國際協力サービス・センター(昭和 57 年 12 月)
28. 経済技術協力国別資料シリーズ ～バングラデシュ～; 國際協力事業団(1983 年 1 月)

● 分野区分対照表

No.	JICA SECTOR	UNDP SECTOR
1.	計画・行政 開発計画 行政	02 - General development issues, policy and planning Development strategies policies and planning General statistics Public administration
2.	公共・公益事業 公益事業 運輸交通 社会基盤 通信・放送	06 - Transport and Communications Policy and planning Air transport Land transport Water transport and shipping Postal services Telecommunications 09 - Human settlements Settlements planning Housing and infrastructure
3.	農林・水産 農業 畜産 林業 水産	04 - Agriculture, forestry and fisheries Agricultural development support service Crops Livestock Fisheries Forestry
4.	鉱工業 工業 鉱業 エネルギー	03 - Natural resources Cartography Land and water Mineral resources Biological resources Energy 05 - Industry Industrial development support services Manufacturing industries Tourism and related services Other service industries
5.	商業・観光 商業・貿易 観光	07 - International trade and development finance Global trade policies Trade in commodities Trade in manufactures Trade promotion and trade in services Development finance and monetary problems

No.	JICA SECTOR	UNDP SECTOR
6.	人的資源 人的資源 科学・文化	11 - Education Educational policy and planning Educational facilities and technology Educational systems Non-formal education 15 - Culture Cultural preservations and development Protection of authors and performers Communication and mass media 16 - Science and technology Promotion of science Development and transfer of technology Oceanography Meteorology
7.	保健・医療	08 - Population Population dynamics Family planning 10 - Health Comprehensive health services Disease prevention and control Environmental health
8.	社会福祉	12 - Employment Employment promotion and planning Skills development Conditions of employment Industrial relations 13 - Humanitarian aid and relief Protection of and assistance to refugees and displaced persons Disaster, relief preparedness and prevention Special humanitarian operation 14 - Social conditions and equity Human rights Social sciences Welfare and social security Advancement of women Disadvantaged groups Prevention of crime and drug abuse
9.	その他	01 - Political affairs Political and security activities Special missions Disarmament General international law Trusteeship, decolonization and apartheid

◎ バングラデシュ人民共和国

